

情報教育推進委員会

1 研究の概要

(1) 目的

全市立小・中学校における情報教育の推進を目指し、児童生徒の学力向上や情報活用能力の育成を図ることを目的とする。その目的を達成するため、教育の情報化についての現在の課題解決に向けた実践研究を行う。

(2) 研究テーマ

「授業における ICT 活用指導力の向上」～デジタル教科書等の活用を通して～

(3) 研究方針

情報機器（電子黒板）・デジタル教科書の授業での活用場면을考察し、検証授業を通して市全体の情報教育の推進を図る。

(4) 研究内容

情報機器（電子黒板）やデジタル教科書を活用し、情報活用能力を高める授業研究会を小学校及び中学校で行う。

(5) 研究の経過

- ・第1回 7月13日（金） 15：30～ 16：30
委嘱書交付、川越市情報教育の現状と課題、今年度の方針、今後の予定
電子黒板・デジタル教科書の活用について
公開授業・授業者の決定
- ・第2回 9月4日（火） 15：15～ 16：30
デジタル教科書の操作、授業場面の想定、単元決定
授業研究会の役割分担
※指導案については、電子メールにて委員間で相互に修正等の情報を共有した。
- ・第3回 10月30日（火）第1回授業研究会
川越市立富士見中学校
第3学年 英語科 「Program7-1」
授業者 成田 仁 教諭
指導者 川越市立高階西中学校 吉田一彦 教頭
参会者 17名
- ・第4回 11月20日（火）第2回授業研究会
川越市立上戸小学校
第6学年 社会科「長く続いた戦争と人々の暮らし」
授業者 齋藤 怜 教諭
指導者 川越市立月越小学校 井口修一 教頭
参会者 23名

2 研究の内容

(1) 第1回授業研究会 研究協議会

① 授業者の振り返り・取組

- ・ デジタル教科書が授業の中で教具として違和感なく活用できるようにするため、4月から使い始めた。
- ・ デジタル教科書を使い始めたころは、操作面で難しいところがたくさんあり、慣れるまで時間がかかった。
- ・ 表現する力を身に付けるには、たくさんインプットさせることが必要である。そのためにはデジタル教科書を使うことが効果的である。
- ・ デジタル教科書を使うことで生徒の興味関心を引き出した。
- ・ 生徒たちがデジタル教科書を活用した授業を好んでいる。
- ・ プロジェクタの設置・調整が時間の無駄でデメリットと感じる。

② グループ協議

Aグループ

- ・ メリットとして、音声や動画、動きがあるものがあってよい。
- ・ デメリットとして、使い慣れるのが大変。授業者が機器の操作に戸惑うと生徒の様子が見られない。
- ・ 今後のICTの活用として、プロジェクタや電子黒板の台数等、環境整備が必要である。

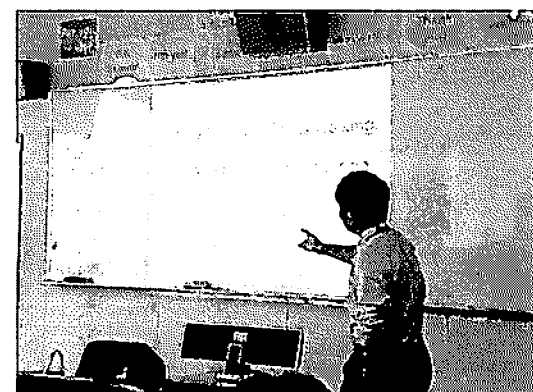
Bグループ

- ・ 機器を上手く使っていた。授業の流れがスムーズだった。
- ・ フラッシュカードが便利でよい。
- ・ 機器を使ったことのない教員が多い。推進していくには、操作研修会等を実施し、操作能力を身につけ、使いやすくすべきである。その中で、メリットとデメリットを挙げてもらったほうがよい。

Cグループ

- ・ メリットとして、ICTの活用を図ることで声に出すアウトプットの時間もたくさんあった。
- ・ デメリットとして、表示が消えてしまう。
- ・ 授業者がコンピュータから離れられない。
- ・ 今後のICTの活用として、夏季を利用して、た

<中学校英語科 授業の様子>

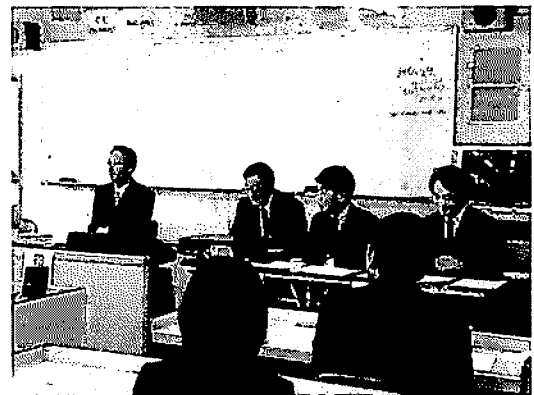
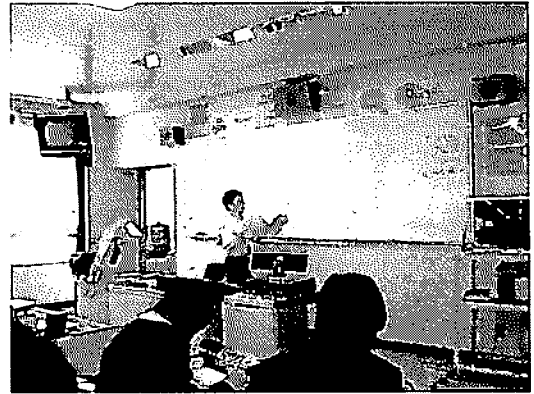


くさん研修があるとよい。今回の研修会でICTの活用方法を推進できたと思う。

③ 指導講評

川越市立高階西中学校
吉田 一彦 教頭先生

- ・ 中学校英語科の全体的な傾向を見ると、できるかできないか、好きか嫌いかの二極化傾向にある。
- ・ 苦手な生徒は、音声は覚えることは、よくできているが、文字を覚えるのが困難である。
- ・ 中学校の教師の役割としては、できない生徒をできるようにすることである。
- ・ 本時の授業では、生徒がいきいきと学習をしていた。
- ・ 学習指導要領では、コミュニケーション能力を重視している。
- ・ 中学校の英語科の教師は、生徒にコミュニケーション能力の基礎を身につけさせることが大切である。
- ・ 教師が英語を話すモデルとなることが大事である。本日の授業を展開した成田先生は、たくさん英語を話していて、英語環境が適切であった。
- ・ ICT活用について、操作方法に慣れば、とても効果的な教具となる。
- ・ デジタル教科書の課題として、使用方法を知らない先生が多い。頻繁に使って慣れることが必要である。また、全ての生徒に効果的に使用できるように、どの場面で使うのが重要になってくる。今後、活用方法を考えていくことが我々教師の課題である。



(2) 第2回授業研究会 研究協議会

① 授業者の振り返り・取組

- ・ 児童は社会(歴史)が好きになりいろいろな知識を漫画や本から得ている。その反面、人物や事柄の暗記が多く、苦手意識をもってきている児童もいる。
- ・ 導入場面で東京大空襲の映像を見せたかったが、うまく映せなかった。準備では映せていたが、フォルダを削除してしまった。
- ・ 沖縄戦と原爆、2つを1時間の授業で扱うのは盛

り込みすぎと事前の指導で指導されていたが、研究授業ということで今回挑戦してみた。

- ・ デジタル教科書のコンテンツをフル活用できた。
- ・ デジタル教科書の資料を使い、戦争被害の状況について、日本だけにとどまらない大きなものだったと強調できた。
- ・ デジタル教科書だけでなく、実際の玉音放送を聴かせるなど様々な情報コンテンツを利用できた。

② 質疑応答

- ・ 動画は調べ学習が終わった後に使用していたが、まとめて使った意図について
→今回は学ぶ量が多く、調べたことについてより深めていく段階で使用した。
- ・ エディタの他、使用例があれば紹介してほしい。
→デジタル教科書を使いこなすため、エディタのみを使用している。今日は、保存の仕方を間違えたため、導入で使用できなかった。
- ・ 玉音放送等、ダウンロード使用しても良いのか。学校のPCに保存すると初期化され、消えてしまうのでは。
→国立公文書館のホームページからダウンロードして使用した。著作権について確認し、無料で使用できる。

③ グループ協議会

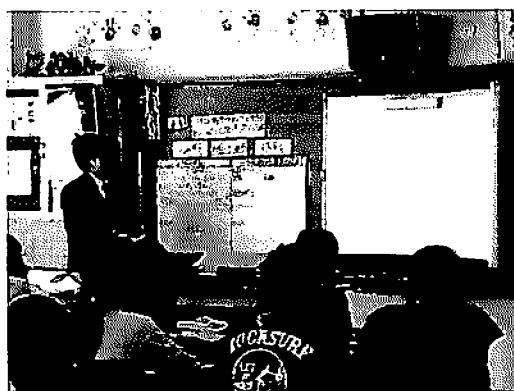
Aグループ

- ・ 豊富な資料、よく教材研究もされていた。情報量が多かった。もう少し子どもたちの声を取り入れたい。
- ・ 課題に対してのまとめはこれで良かったのか。
- ・ 調べ学習でもっと子どもの声を聞いても良かった。
- ・ 紙ベースで黒板に貼っていたものもデジタルでやってみてはどうか。時間短縮にもなりそうである。ダブルプロジェクタという方法もできるかもしれない。
- ・ プロジェクタの代わりに大型テレビも使える。

Bグループ

- ・ 画像や映像をつかうととてもわかりやすい。
- ・ 授業にメリハリがあり、スムーズな流れでできていた。
- ・ 後ろの方からは画像が見づらかった。
- ・ 子どもも参加させてデジタルコンテンツを使

<小学校社会科 授業の様子>



っても良かった。

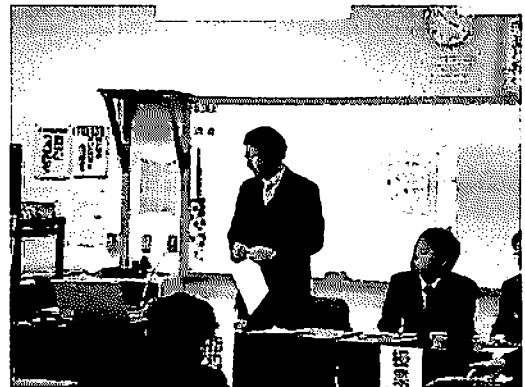
- ・ 機器について準備に時間がかかり、操作に慣れないと使用が難しい。
- ・ 各教室にLAN、ネット環境がほしい。
- ・ デジタル教科書を全学年全教科で使用したい。
- ・ タブレット端末を使用している学校の授業を見たことがあり、良かった。

Cグループ

- ・ 動画を止めながら使用し、機器を上手に使っていた。
- ・ とても内容が盛りだくさんであり、講師主導型になってしまった。
- ・ 活用するだけでなく、利用の仕方考えることが必要である。
- ・ デジタルコンテンツで戦争体験談が聞けるのが魅力的だった。
- ・ 調べ学習を児童がしている間にLANがあれば教師も新たに調べられる。
- ・ セッティングの手間が省ければもっと広まるのではないかな。
- ・ 児童が使用するICT活用も良いのではないかな。

Dグループ

- ・ 最初（調べ学習）に活用するか、終わり（まとめ）に活用するか、資料をどの場面で使うのかの選択が効果的な授業をするのに大切である。
- ・ 映像資料は調べ学習でも使用できるのではないかな。
- ・ デジタル教科書を上手に使用できれば学習効果が期待できるのではないかな。
- ・ スクリーンの設置位置が難しい。別の黒板を使ってもよいのではないかな。
- ・ 1校にプロジェクタの数が少ないので、授業計画が立てづらい。



④ 指導講評

川越市立月越小学校

井口 修一 教頭先生

- ・ 生に触れられない時の資料が重要になる。
- ・ 学習課題への興味関心を高めたり、学習内容をわかりやすく説明したりするためにICTが有効である。
- ・ より深い理解を促し、情報を収集選択したり、まとめたり表現したりして知識の定着や技能の習熟を図るためにICTが有効である。

- ・ 教材研究・指導の準備・評価などにICTを活用する能力が必要である。
- ・ 使用の際には、ソフト・機器の使い方・情報収集・環境整備が必要である。
- ・ 子どもたちがどう使えるか（情報収集・ネット・ワープロ・表計算・プレゼンテーションソフト）情報発信能力が必要である。
- ・ 本時の授業から
 - この小単元の特徴として、歴史（戦争）の体験者の声が聞ける。地域にも戦争に関する身近な資料等がある。
 - 現在に最も近い歴史 歴史認識の世界的な違い。
- ・ 資料提示として
 - 資料を全て見せる必要はない。→選択する力（指導の狙いから）
 - 「知っているつもり」「全く知らない」の混在する授業は難しい。
- ・ 考えさせる授業・正しく隔たりのない授業をする必要がある。
- ・ 指導計画の段階で、どこで使うと効果的なのか考える必要がある。
- ・ ICT活用のメリットとして
 - 学習意欲の向上、興味関心の喚起 ← 映像
 - 活動や学習内容の共有化 ← 拡大・アンダーライン
 - 思考力、表現力の向上 ← グラフ・シミュレーション
- ・ 教師も児童生徒も活用能力の個人差が大きい。
- ・ 教師用デジタル教科書を使用すると、教師主導の授業になりやすい。
- ・ 板書計画をしっかりと立てることでICT活用の効果が上がる。本日の授業では、画面投影の位置、指導過程が分かる黒板で適切であった。しかし、画面が小さかったのと教科書の使用も必要である。
- ・ 教室環境の工夫として、今あるハードをどう活用していくか。少ない機器を割り振りして、活用実績が増えていくと、各学校でも潤っていくのではないか。
- ・ ICTの活用について知っている人や扱える人が、広めていくことが大切である。皆で高めていくことが肝要である。

3 まとめ

(1) 成果

- ・ デジタル教科書が、昨年度の小学校導入に続き、今年度は、中学校にも導入され、授業におけるICTの更なる活用について研究を深めることができた。
- ・ 委員会では、実際にデジタル教科書の操作を通し、活用に向けて使用場面や活用形態等について情報交換が図れた。
- ・ 授業研究会及び研究協議会を小・中それぞれ実施することができた。参加された先生方からは、グループ討議を通し、デジタル教科書活用に向けて、活発な協議がなされた。

(2) 課題

- ・ 授業を通してデジタル教科書をはじめとするICT活用が図られるよう、教員の技能に応じた操作研修会や活用事例の紹介を推進していく。
- ・ 研究協議の中で機器等の課題（学校ごとの設置台数、導入教科）が挙げられている。活用率を上げるためにも、計画的に機器等の導入を図っていく必要がある。
- ・ 情報教育担当教員の参加が多いため、次年度は、より多くの教員が参加できるように呼びかけ、誰もがストレスなく授業でICTを活用できるようにしていく。

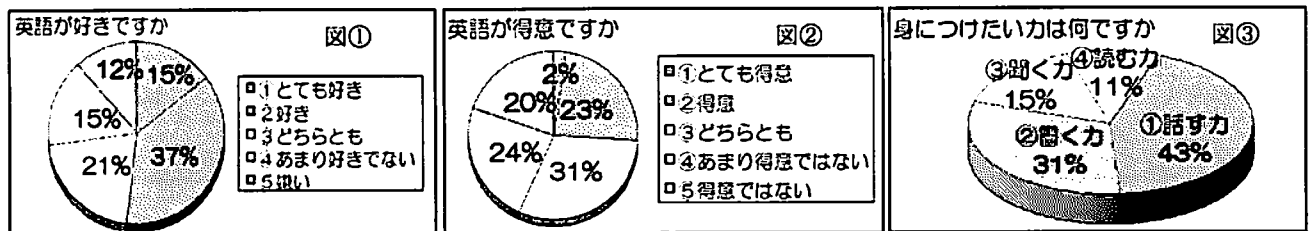
1 題材名 : Program 7-1 What Is the Most Important Thing to you

2 生徒の実態

今回授業をするにあたり、3年生の生徒に実態調査を行った。

(1) 英語に対する情意面に関する実態 (10月19、22日)

※質問事項 図①英語が好きですか 図②英語が得意ですか 図③英語の授業で何を身につけたいですか



図①の「英語が好きですか」という質問に対し、3学年の生徒たちは「とても好き」、「好き」と回答した生徒を合わせると52%であり、半数を超えている。図②の「英語が得意ですか」の質問に対して、「とても得意」、「得意」と答えた生徒を合わせると25%である。また、「あまり得意ではない」と「得意ではない」を合わせると44%である。これらの質問から英語が好きではあるが、あまり得意ではないということがわかる。

図③の質問では、英語科の目標のうち「英語の授業で何を身につけたいですか」という質問では、43%の生徒が「話す力」と答えている。次に「書く力」が31%、「聞く力」が15%、「読む力」が11%であった。生徒たちは実践的なコミュニケーション能力では特に「表現力」を高めたいと考えているということが分かる。

3 教材観

現行の学習指導要領における外国語の目標は、外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うことである。

本課で取り上げている言語材料は、関係代名詞“who”、“which”、“that”であるが、学習指導要領の扱いでは「活用にあたっては、過度に難しいものや複雑なものに偏るのではなく、適切なものを扱うことが重要である」としている。これらの関係代名詞を用いた文に聞くことや読むことを通して慣れさせ、理解を深めさせたい。また、本文の内容においては、海外でボランティア活動を行っている方の報告から、「意味のある国際理解とは何か」を理解させることとしている。内容を深めるには、手がかりとなる語句や表現を聞かせながら、正確な読み取りの手助けをする必要がある。生徒が身につけたい力としている表現力を培うためには、正しい音声に慣れさせ、何度も繰り返して音読しなければ、音と文字の一致を図ることができないと考える。そこで音読指導の仕方を工夫し、英語学習の幅を広げていきたい。

4 指導観

(1) 言語材料

教材の基礎・基本の内容

・主格の“who”、“which”、“that”「人」や「物や事柄」を先行詞とする関係代名詞の文構造の知識を身に付けている

学習指導要領から

関係代名詞のうち主格、目的格の制限用法を指導すること

(2) 言語活動

ウォームアップでは、後置修飾を形や語順に気をつけて、多読できるように工夫したい。また、関係代名詞を含んだ文を聞くこと、読むことをさせ、理解を深めたい。展開場面では教科書の内容について多読することで読解力を高めたい。

(3) デジタル教科書を活用した指導法の工夫
 (教材の内容から指導を考える)

一般的な指導では、教師等のモデルから反復した後、個人読みやペアでの音読等の学習形態から練習をすることが予想される。

機械的な音読のドリル学習を行えば、ある程度の内容理解をすることができるであろう。しかし、単調な練習では、生徒の意欲が半減しがちである。そこで、学習効果をあげるために以下のような指導法の工夫を考えた。

指導の工夫

デジタル教科書を活用しながら、わかりやすく音読できるように一語読みや、日本語訳読み等を活用し、生徒の意欲を高められるよう工夫する。また、個人の読みやペアでの音読が単調にならないように工夫したい。

(音読指導から考える)

英語科の学習指導要領では、「生徒の実態や教材の内容に応じてコンピュータや情報通信ネットワーク、情報機器等の活用、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得たり、ペアワーク、グループワークなどの学習形態を工夫すること。」としている。実際に音読学習には意欲的に取り組んでいる。そこで、音読方法を工夫し、音声指導の充実を図りたい。

実際に、「日本人が英語を使うとき、日本語とは異なる脳の領域を使うため『音読』は音声言語だけでなく、文字言語を同時に用いる、『黙読』より脳を活性化させる効果がある。また、短期的な記憶力の増加と長期的継続による言語を処理する能力が向上する。つまり、脳を鍛えれば、それだけ定着する。」(東北大学教授川島隆太)と述べられている。そこで、生徒の言語習得のために手段とし、デジタル教科書を活用した多読による音声指導を充実させたい。

(10月19日、21日のアンケート結果から考える)

実際に本校の英語の3年生の授業ではデジタル教科書を活用した授業を展開している。アンケートの質問では、「デジタル教科書を使った授業はわかりやすいか。」という質問に対して、57%の生徒が「わかりやすい。」と解答している。その理由として「音声を正しく聴くことができる。」が多く、次に「文法説明がわかりやすい。」「動画を見ることができる。」「繰り返して取り組める。」「字が大きく見やすい。」の順に解答が多かった。生徒が求めている表現力を高めるには、視覚的な要素を取り入れながら、正しい音声を何度も繰り返して取り組ませていくことが必要であると考えます。

5 本題材の目標

- (1) 関係代名詞による後置修飾の構造を正しく認識できる。(知識・理解)
- (2) 主格の関係代名詞を用いて正しく活用して、表現できる。(表現)
- (3) 山本さんのボランティア報告から現地の子どもたちに大切なものを読み取る。(知識・理解)

6 本題材の指導計画

時	学習内容	コミュニケーション 関・意・態	外国語表現	外国語理解	言語・文化
1	関係代名詞 who(主格)	○	○		○
2	§ 1 本文 (本時)	○		○	
3	関係代名詞 which(主格)	○	○		○
4	§ 2 本文	○		○	
5	関係代名詞 that(主格)	○	○		○
6	§ 3 本文	○		○	

7 本時の学習 (30th, October 5th period)

(1) 本時のねらい (目標)

- ①関係代名詞を含む文を、正しく表現ができる。(表現)
- ②本文の内容を理解する。(理解)

(2) 本時の展開 (本時：2 / 6)

酒の容	学 習 活 動		指導上の留意点 評価項目 関 表 理 知
	学習内容	教師の支援 ○指導の手立て	
導 入 15min	【Greeting】1min 英語であいさつ	【Greeting】 それぞれが英語であいさつ	関 大きな声で教室を活気付ける。
	【Review】4min 後置修飾を用いた表現学習	【Review】 ○学習形態の工夫し、後置修飾を表現させる。	関 意欲的に後置修飾の文を読むことができる。
	【Review】10min 文法事項の確認 The girl who has just walked away.	【Review】 ○関係代名詞を含む接触節に触れながら、文法事項の確認や例文練習を行う。	デジタル教科書の活用① ・文法解説アニメを活用し、説明を行う。 ・リスニング練習等を行う。
展 開 30min	【Word Speaking】8min 新出単語の練習を行う。	【Word Speaking】 ○単語の音声練習や単語の意味確認を効率よく行う。	関 間違いを恐れず、読むことできる。 知 文字と意味の確認を行う。 デジタル教科書を活用② ・音声機能や表示機能を活用し、文字や意味の確認を行う。
	【Oral introduction】4min 音声による内容理解を行う。 【Reading】18 min ①Chorus ②Check reading ③translation reading ④2 minutes reading ⑤battle reading ⑥shadowing	【Oral introduction】 ○簡単な語句や表現を使いながら、内容を理解させる。 【Reading】 ○何度も繰り返し練習させる。 ○本文を暗記できるような工夫を行う。 ・一語読み ・個人読み ・日本語訳読み ・2分間読み ・ペア読み等。	関 間違いを恐れず、読むことできる。 理 本文の内容を理解することができる。 デジタル教科書を活用③ ・ピクチャーチャートを利用した内容確認 ・英語や日本語表示の切替えによる音声練習。
ま と め 5 min	【Conclusion】5min プリントに今日の学習事項を書き入れる。 本時の学習の振り返り 【Greeting】 英語であいさつ	【Conclusion】 活動の成果を確認する ○援助が必要な生徒への助言 本時の学習の振り返り 【Greeting】 英語であいさつ	理 本文の内容を理解することができる。

(3) 本時の評価

- ①関係代名詞を含む文を、正しく表現ができたか。(表現)
- ②本文の内容を理解できたか。(理解)

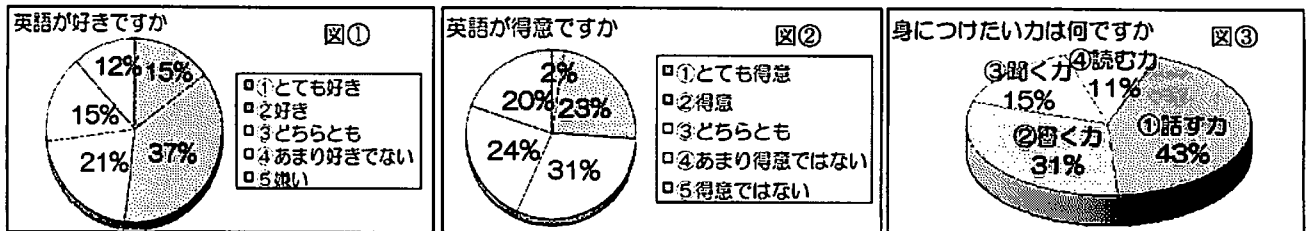
1 題材名：Program 7-1 What Is the Most Important Thing to you

2 生徒の実態

今回授業をするにあたり、3年生の生徒に実態調査を行った。

(1) 英語に対する情意面に関する実態 (10月19、22日)

※質問事項 図①英語が好きですか 図②英語が得意ですか 図③英語の授業で何を身につけたいですか



図①の「英語が好きですか」という質問に対し、3学年の生徒たちは「とても好き」、「好き」と回答した生徒を合わせると52%であり、半数を超えている。図②の「英語が得意ですか」の質問に対して、「とても得意」、「得意」と答えた生徒を合わせると25%である。また、「あまり得意ではない」と「得意ではない」を合わせると44%である。これらの質問から英語が好きではあるが、あまり得意ではないということがわかる。

図③の質問では、英語科の目標のうち「英語の授業で何を身につけたいですか」という質問では、43%の生徒が「話す力」と答えている。次に「書く力」が31%、「聞く力」が15%、「読む力」が11%であった。生徒たちは実践的なコミュニケーション能力では特に「表現力」を高めたいと考えているということが分かる。

3 教材観

現行の学習指導要領における外国語の目標は、外国語を通じて言語や文化に対する理解を深め、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度の育成を図り、聞くこと、話すこと、読むこと、書くことなどのコミュニケーション能力の基礎を養うことである。

本課で取り上げている言語材料は、関係代名詞“who”、“which”、“that”であるが、学習指導要領の扱いでは「活用に当たっては、過度に難しいものや複雑なものに偏るのではなく、適切なものを扱うことが重要である」としている。これらの関係代名詞を用いた文に聞くことや読むことを通して慣れさせ、理解を深めさせたい。また、本文の内容においては、海外でボランティア活動を行っている方の報告から、「意味のある国際理解とは何か」を理解させることとしている。内容を深めるには、手がかりとなる語句や表現を聞かせながら、正確な読み取りの手助けをする必要がある。生徒が身につけたい力としている表現力を培うためには、正しい音声に慣れさせ、何度も繰り返して音読しなければ、音と文字の一致を図ることができないと考える。そこで音読指導の仕方を工夫し、英語学習の幅を広げていきたい。

4 指導観

(1) 言語材料

教材の基礎・基本の内容
・主格の“who”、“which”、“that”「人」や「物や事柄」を先行詞とする関係代名詞の文構造の知識を身に付けている

学習指導要領から
関係代名詞のうち主格、目的格の制限用法を指導すること

(2) 言語活動

ウォームアップでは、後置修飾を形や語順に気をつけて、多読できるように工夫したい。また、関係代名詞を含んだ文を聞くこと、読むことをさせ、理解を深めたい。展開場面では教科書の内容について多読することで読解力を高めたい。

(3) デジタル教科書を活用した指導法の工夫
 (教材の内容から指導を考える)

一般的な指導では、教師等のモデルから反復した後、個人読みやペアでの音読等の学習形態から練習をすることが予想される。

機械的な音読のドリル学習を行えば、ある程度の内容理解をすることができるであろう。しかし、単調な練習では、生徒の意欲が半減しがちである。そこで、学習効果をあげるために以下のような指導法の工夫を考えた。

指導の工夫

デジタル教科書を活用しながら、わかりやすく音読できるように一語読みや、日本語訳読み等を活用し、生徒の意欲を高められるよう工夫する。また、個人の読みやペアでの音読が単調にならないように工夫したい。

〈音読指導から考える〉

英語科の学習指導要領では、「生徒の実態や教材の内容に応じてコンピュータや情報通信ネットワーク、情報機器等の活用、ネイティブ・スピーカーなどの協力を得たり、ペアワーク、グループワークなどの学習形態を工夫すること。」としている。実際に音読学習には意欲的に取り組んでいる。そこで、音読方法を工夫し、音声指導の充実を図りたい。

実際に、「日本人が英語を使うとき、日本語とは異なる脳の領域を使うため『音読』は音声言語だけでなく、文字言語を同時に用いる、『黙読』より脳を活性化させる効果がある。また、短期的な記憶力の増加と長期的継続による言語を処理する能力が向上する。つまり、脳を鍛えれば、それだけ定着する。」(東北大学教授川島隆太)と述べられている。そこで、生徒の言語習得のために手段とし、デジタル教科書を活用した多読による音声指導を充実させたい。

〈10月19日、21日のアンケート結果から考える〉

実際に本校の英語の3年生の授業ではデジタル教科書を活用した授業を展開している。アンケートの質問では、「デジタル教科書を使った授業はわかりやすいか。」という質問に対して、57%の生徒が「わかりやすい。」と解答している。その理由として「音声を正しく聴くことができる。」が多く、次に「文法説明がわかりやすい。」「動画を見ることができる。」「繰り返して取り組める。」「字が大きく見やすい。」の順に解答が多かった。生徒が求めている表現力を高めるには、視覚的な要素を取り入れながら、正しい音声を何度も繰り返して取り組ませていくことが必要であると考える。

5 本題材の目標

- (1) 関係代名詞による後置修飾の構造を正しく認識できる。(知識・理解)
- (2) 主格の関係代名詞を用いて正しく活用して、表現できる。(表現)
- (3) 山本さんのボランティア報告から現地の子どもたちに大切なものを読み取る。(知識・理解)

6 本題材の指導計画

時	学習内容	コミュニケーション 関・意・態	外国語表現	外国語理解	言語・文化
1	関係代名詞 who(主格)	○	○		○
2	§ 1 本文 (本時)	○		○	
3	関係代名詞 which(主格)	○	○		○
4	§ 2 本文	○		○	
5	関係代名詞 that(主格)	○	○		○
6	§ 3 本文	○		○	

7 本時の学習 (30th, October 5th period)

(1) 本時のねらい (目標)

- ①関係代名詞を含む文を、正しく表現ができる。(表現)
- ②本文の内容を理解する。(理解)

(2) 本時の展開 (本時：2 / 6)

活動内容	学 習 活 動		指導上の留意点 評価項目 <input type="checkbox"/> 関 <input type="checkbox"/> 表 <input type="checkbox"/> 理 <input type="checkbox"/> 知
	学習内容	教師の支援 ○指導の手立て	
導入 15min	【Greeting】1min 英語であいさつ	【Greeting】 それぞれが英語であいさつ	<input type="checkbox"/> 大きな声で教室を活気付ける。
	【Review】4min 後置修飾を用いた表現学習	【Review】 ○学習形態の工夫し、後置修飾を表現させる。	<input type="checkbox"/> 意欲的に後置修飾の文を読むことができる。
	【Review】10min 文法事項の確認 The girl who has just walked away.	【Review】 ○関係代名詞を含む接触節に触れながら、文法事項の確認や例文練習を行う。	<input type="checkbox"/> デジタル教科書の活用① ・文法解説アニメを活用し、説明を行う。 ・リスニング練習等を行う。
展開 30min	【Word Speaking】8min 新出単語の練習を行う。	【Word Speaking】 ○単語の音声練習や単語の意味確認を効率よく行う。	<input type="checkbox"/> 間違いを恐れず、読むことできる。 <input type="checkbox"/> 文字と意味の確認を行う。 <input type="checkbox"/> デジタル教科書を活用② ・音声機能や表示機能を活用し、文字や意味の確認を行う。
	【Oral introduction】4min 音声による内容理解を行う。 【Reading】18 min ①Chorus ②Check reading ③translation reading ④2 minutes reading ⑤battle reading ⑥shadowing	【Oral introduction】 ○簡単な語句や表現を使いながら、内容を理解させる。 【Reading】 ○何度も繰り返し練習させる。 ○本文を暗記できるような工夫を行う。 ・一語読み ・個人読み ・日本語訳読み ・2分間読み ・ペア読み等。	<input type="checkbox"/> 間違いを恐れず、読むことできる。 <input type="checkbox"/> 本文の内容を理解することができる。 <input type="checkbox"/> デジタル教科書を活用③ ・ピクチャーチャートを利用した内容確認 ・英語や日本語表示の切替えによる音声練習。
まとめ 5 min	【Conclusion】5min プリントに今日の学習事項を書き入れる。 本時の学習の振り返り 【Greeting】 英語であいさつ	【Conclusion】 活動の成果を確認する ○援助が必要な生徒への助言 本時の学習の振り返り 【Greeting】 英語であいさつ	<input type="checkbox"/> 本文の内容を理解することができる。

(3) 本時の評価

- ①関係代名詞を含む文を、正しく表現ができたか。(表現)
- ②本文の内容を理解できたか。(理解)

第6学年2組 社会科学学習指導案

平成24年11月20日(火) 6年2組教室

男子20名 女子19名

授業者 齋藤 怜

1 小单元名 第6学年(1) ケ 『長く続いた戦争と人々の暮らし』

2 小单元について

(1) 教材観

本小单元は、新学習指導要領の6年生の内容(1)ケを受けて、日中事変、我が国にかかわる第二次世界大戦について理解させることがねらいである。

1 目標

(1) 国家・社会の発展に大きな働きをした先人の業績や優れた文化遺産について興味・関心と理解を深めるようにするとともに、我が国の歴史や伝統を大切にし、国を愛する心情を育てるようにする。

2 内容

(1) 我が国の歴史上の主な事象について、人物の働きや代表的な文化遺産を中心に遺跡や文化財、資料などを活用して調べ、歴史を学ぶ意味を考えるようにするとともに、自分たちの生活の歴史的背景、我が国の歴史や先人の働きについて理解と関心を深めるようにする。

ケ 日華事変、我が国にかかわる第二次世界大戦、日本国憲法の制定、オリンピックの開催などについて調べ、戦後我が国は民主的な国家として出発し、国民生活が向上し国際社会の中で重要な役割を果たしてきたことが分かること。

日本が、満州事変を契機として、日中戦争を起し、さらに太平洋・アジアへと戦争を拡大し、15年という長い歳月に渡って続けた一連の経過を理解させる。そして、それぞれの戦争の戦況、被害、当時の人々の生活の様子をつかませながら、第6学年の目標・内容にせまろうとするものである。

我が国と中国との戦いが全面化したことを取り上げて調べ、我が国が戦時体制に移行したことが分かるようにしたり、また、我が国がアジア・太平洋地域において連合国と戦って敗れたことを取り上げて調べ、各地への空襲、沖縄戦、広島・長崎への原爆投下など、国民が大きな被害を受けたことが分かるようにしたりすることである。また、これらの戦争において、我が国は、中国をはじめとする諸国に大きな被害を与えたことについても触れることが大切である。

ここでは、埼玉県立平和資料館の「ピースキャラバン」の方から話を聞くことによって戦時中の生活や戦争の様子に関心をもたせ、具体的資料を活用して課題を解決していくために必要な情報を得る。課題を解決していく中で、平和を維持していくために世界の国々の人々と協調して生きていくことが大切であることを自覚できるようにすることをねらっている。

(2) 児童観

本学級の児童は、6年生から始まった歴史学習で、人物や文化遺産、その時代背景に興味をもって調べ、多くの児童が歴史の授業にとっても関心をもって臨んでいる。また、学級文庫としておいてある歴史に関連する本や学習マンガも喜んで読み、日常生活の中に歴史へ親しむ姿が見られる。しかし2学期に入り、歴史学習では登場人物が増えてきたり、歴史的史実が複雑になったりするため、苦手意

識を持つ児童が増えてきた。社会科に対しての児童の実態の詳細を知るため、アンケートの実施を行った。

【社会科アンケート結果 10月19日 39名 実施】 ※主な理由

1 社会科は好きですか。

好き 10人 どちらかという好き 11人 どちらかという嫌い 15人 嫌い 3人

○歴史上の人物が行ったことがわかったり、文化遺産や国宝についても色々と学べたりするから。

○その時代の生活や文化がわかるから。

○今と昔を結びつけるのが面白いから。

○地理は苦手だが、歴史は好きだから。

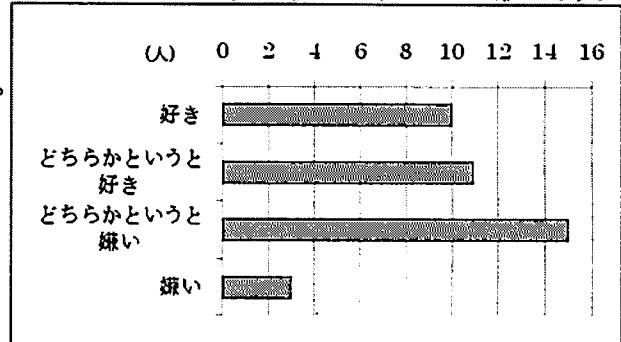
○日本の時代の変化を知りたいから。

●覚えることが難しいから。

●色々な時代の変化は好きだが、覚えることは嫌いだから。

●新聞やノートにまとめるのは好きだが、覚えることが多くて嫌だから。

●覚えることが多いだけで、興味がないから。

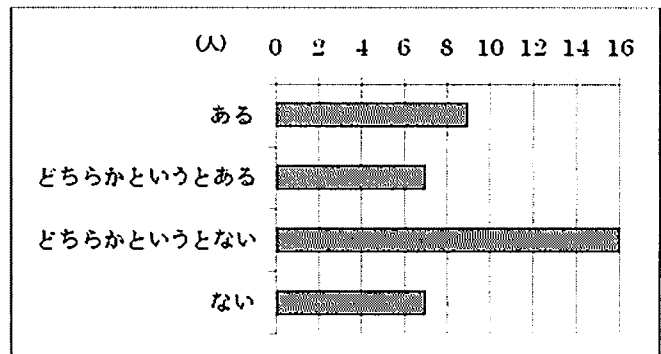


2 戦争について興味はありますか。

ある 9人 どちらかというある 7人 どちらかというない 16人 ない 7人

3 戦争についてどんなことを知っていますか。

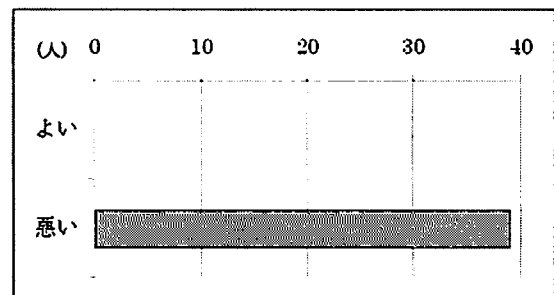
- ・日本は島国でありながらもロシア軍に勝ち、世界を驚かせたこと。
- ・広島に原爆を投下されたこと。
- ・戦争で何万人の人が亡くなったこと。
- ・国と国との奪い合いだということ。



4 戦争はよいことですか、悪いことですか。

よい 0人 悪い 39人

- ・戦争は死者を増やし、子どもや大人も苦しむから。
- ・多くの人の命や心を傷つけるから。
- ・人を傷つけたりするものは絶対いらぬと思うから。
- ・人が死んでしまい、苦しくて悲しくなるものだから。
- ・人を殺したりすることは悪いことだから。



5 戦争についてどんなことを学習していきたいですか。

- ・戦争の目的、戦争が起きた原因。
- ・戦前と戦後の違い。
- ・戦争をして、巻き込まれた人々の苦勞。
- ・どうしたら戦争のない明るい未来を迎えられるか。

戦争に対する知識量の差は大きく、日中戦争・太平洋戦争のことを知っている児童から、国語科の学習「平和のとりでを築く」で学んだ戦争の知識程度で、ほとんど戦争について知らない児童までいる。戦争を空襲、原爆などの断片的な知識や「悪い、恐い、死者が多い」などのイメージで捉えながらも、アンケートの結果でわかるように、「戦争はいけないものだ」という意識を持ち、児童一人ひとりが戦争に対する思いを比較的しっかりと持っていることがわかる。

(3) 指導観

戦争に対する様々な事象を昔の出来事として傍観的に捉えてしまうのではなく、当時の日本について共感的な態度で学習を展開していきたい。そのためには、資料から読み取れる事実を客観的に捉えさせ、児童の意見を大切にしていく。事象に対する自分の考えや思いをより強く持つことで、自分なりの表現活動をしたり、自分の言葉で意欲的に発言したりすることができるようになることを考える。

6年の社会科では、デジタル教科書含め、デジタルコンテンツを使うことが多い、歴史の内容を理解するには、視覚的に訴えられるのが最適である。しかし、デジタルコンテンツをただ流すのではなく、小単元の目標に即した学習過程に合うように使用してきた。本小単元もデジタルコンテンツを活用して、学習過程を進めていく。「つかむ」過程では、代表的な文化遺産として世界文化遺産である原爆ドームを取り上げ、戦争の恐ろしさや悲惨さを考えさせ、平和を願う人々の思いを捉えさせる。また、戦争に関する動画や画像を提示したり、原爆投下前の広島産業奨励館と投下後の原爆ドームをデジタル教科書で比べさせたりして、これからの学習について意欲を喚起させ、戦争のイメージを導き出したい。「調べる」過程では、戦時中の様子を知るために、埼玉県立平和資料館の「ピースキャラバン」の方から話を聞いたり、図書館の貸出を利用して、戦争についての本を読んだりして、戦争について具体的に理解させていく。また、戦時中の国民生活の様子や戦争の爪痕などのデジタル教科書やインターネットなどを活用して、児童の追究活動に役立てたい。中国との紛争が広がっていくところは、デジタル教科書の動画を見せ、児童一人ひとりの感じたことを発表させ、これからどう戦争が世界に広がっていったかを意欲付けさせたい。「生かす」過程では、学習問題の結論を導き出せるよう、デジタルコンテンツを活用して、戦争が終結した当時の動画や画像を提示し、15年に渡る戦争を振り返り、この小単元に入る前の戦争に対する自分のイメージと今のイメージを比べて、改めて考えさせるようにする。また、国語科で学習した「平和へのとりでを築く」で自分の「平和」への意見文を改めて読み返すことで、平和を願う人々の思いを深く感じ、考えさせたい。

教育の情報化は、情報活用能力の育成を目指した情報教育の充実及びICTを効果的に活用することによる「わかる授業」の実現などを目的としている。そのため、社会科でのデジタルコンテンツ資料は、デジタル教科書だけにとらわれず、コンピュータ室で調べ学習や「NHK for School 見える歴史」の動画を見せたり、「国立公文書館・国立公文書館アジア歴史資料センター」などから写真や音声を活用したりしている。

6年生の児童にとって、戦争という歴史上大きな出来事はとても興味深いものであり、戦争が起こった原因やその問題点について自分なりの考えを持つことができると思われる。児童の持っている戦争に対しての断片的な知識と本小単元で学習した内容が再構成されることで、戦争への理解が深まるとともに、日本国民の生活の苦しさや原爆投下による戦争の悲惨さを再確認することができる。また、平和を願う日本人の在り方について自分の考えが持てるようにする上で、意義ある学習を展開したいと考える。

3 小単元の目標と評価規準

社会的事象への 関心・意欲・態度	社会的な思考・判断・表現	観察・資料活用の技能	社会的事象についての 知識・理解
戦争や戦場の広がり、戦時下の人々の生活の様子に関心を持ち、意欲的に調べ、考えながら追究することができる。	満州事変をきっかけに中国との戦争が全面化したことや太平洋戦争へと戦争が広がっていくことの学習を通して、それらの原因と背景について考え、これらの戦争が、国民やアジア・太平洋諸国の人々に大きな影響を与えたことを適切に判断することができる。	写真や地図、基礎的資料などを通して、戦争や人々の生活の様子を調べるとともに、調べた過程や結果を目的に応じた方法でわかりやすく表現することができる。	戦争に至った背景と戦争が拡大していく経緯と、その戦争によって、国民が大きな被害を受けたことや、アジア・太平洋諸国の人々に大きな損害を与えたことを捉えることができる。

4 指導計画と評価計画 (8 時間扱い 本時 7/8 時)

	学習活動・学習内容	学習活動に即した評価規準 () 評価方法	ICT活用 デ…デジタル教科書 イ…インターネット 他…デジタルカメラ、 DVDなど
つかむ	<p>① 原爆ドームが世界文化遺産になった理由を話し合い、学習問題をつかむ。 〔世界文化遺産の原爆ドーム〕 ・3枚の原爆ドームの写真を見て考えたことなどを話し合う。また原爆ドームが世界文化遺産になった理由を話し合う。</p> <p>学習問題 「長く続いた戦争」とは、どのような戦争だったのでしょか。また、そのころの人々のくらしはどんな様子だったのでしょか。</p> <p>・戦争を2度と起こさないためにも、どうしたらいいか、本小単元で考えさせる学習問題をつかませる。</p> <p>①事実を知る…戦争は広がった引き金とは？ 日本が中国で行った戦争は、どのような戦争だったのか。</p> <p>②戦争はどのようにして世界に広がったのか。</p> <p>③戦争中、人々は、どのような生活をしていたのか。</p> <p>④日本各地の都市は、空襲によって、どのような被害を受けたか。</p> <p>⑤戦争はどのようにして終わったのか。</p> <p>・平和記念資料館の館長の話を聞き、感じたことを発表させる。</p>	<p>思 原爆ドームが世界文化遺産になった理由を話し合い、長く続いた戦争や当時の人々の生活に関心をもつ。また、この小単元の学習問題をつかむ。 (発言・ノート・ワークシート)</p>	<p>デ 原爆投下前の広島産業奨励館と投下後の原爆ドームを比べさせる。</p> <p>デ 原爆投下の映像を見せ、たった1発の原子爆弾の威力と恐ろしさを理解させる。</p> <p>デ 平和記念資料館の館長さんの話の映像を見る。</p>

調 べ る	<p>② 日本が中国で行った戦争はどのような戦争だったのかを調べる。 [中国との戦争が広がる] ・満州事変、日中戦争を起こした理由や戦争の広がりについて調べる。また戦場となった中国の被害の様子について調べる。 ・中国との戦争が広がることがわかる、歴史年表を埋めさせ、年表を見て、読み取ったこと、感じたことを発表させる。また、なぜ日本が、満州事変や日中戦争を起こしたかを考えさせる。</p> <p>③ 戦争はどのようにして世界に広がったのかを調べる。 [戦争が世界に広がる] ・第二次世界大戦や太平洋戦争の様子について調べる。 ・戦争が世界に広がった理由について、それぞれの立場から思いや気持ちを考える。 「東南アジアの人々」 「東南アジアを占領する日本人」 「戦争へ行く人」</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> 国立公文書館デジタルアーカイブから赤紙の存在を教える。 </div> <p>④ 戦争中、人々はどのような生活をしてきたのかを調べる。 [生活すべてが戦争のために] ・戦争中の人々の衣食について調べる。 ・戦争中の小、中学生の生活について調べる。 ・戦争中の生活の様子について調べる。 ・調べたことを発表し、読み取ったことを共有させる。 ・国民生活全てが戦争に注がれていたことを読み取らせる。</p>	<p>技 日中戦争や戦争の広がりについて地図や年表、資料を活用して必要な情報を読み取ってまとめている。 (行動・ノート・ワークシート)</p> <p>思 戦争の広がりを当時の我が国の状況と関連付けて考え、資源を求めて米英など対立し戦争が広がったことを考え、表現している。 (発言・ノート・ワークシート)</p> <p>技 戦時中の生活の様子について、聞き取り調査をしたり資料を活用したりして調べ、国民生活の全てが戦争に注がれたことを読み取ってまとめている。 (発言・ノート)</p>	<p>デ 中国との戦争が広がるのわかる年表を出し、年表を読み取らせる。 デ 日本軍が中国へ攻めていく進路の画像コンテンツを提示し、視覚で追っていく。 デ 日本が国際連盟からの脱退の映像を見せ、日本人が何を言っているか考えさせる。</p> <p>イ アンネの日記がなぜ発行させたか、杉原千畝がなぜ、第二次世界大戦期に有名だったかを、簡易的に抜粋した文章を読ませる。 デ 戦場となったアジア、太平洋の地域の地図を見せ、日本はどこまで戦場を広げていったかを理解させる。 デ 太平洋戦争の映像を見せ、感じたことを発表させる。 イ 赤紙や特攻隊の存在を伝える。</p> <p>デ 戦争中の生活について動画を流し、どのような生活をしていたか読み取らせる。 イ コンピュータ室で調べ学習を行う。調べる際には、教師が、サイトを絞って紹介する。</p>
-------------	---	--	---



	<p>⑤⑥ 空襲で日本各地の都市が焼かれることによってどのような被害を受けたのかを調べる。 〔空襲で日本各地の都市が焼かれる〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・空襲の様子を調べる。 ・図書、インターネットなどを使って身近な地域の空襲の被害について調べる。 <p>※埼玉県立平和資料館「ピースキャラバン(出前授業)」11月28日(水)に行く。</p> <p>⑦ 戦争はどのようにして終わったのかを調べる。(本時6/7時) 〔原爆の投下と戦争の終わり〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・沖縄戦か広島・長崎の原爆投下の悲劇について、どちらか選択して調べる。のち、発表をさせ、2つの歴史的背景を共有させる。 ・多くの犠牲を出した戦争が終わったときの人々の様子について、わかったことを話し合う。 	<p>知 空襲による被害で、兵士以外にも多くの国民が日本の各地で犠牲になったことがわかっている。 (発言・ノート・ワークシート)</p> <p>技 資料や地図から身近な地域の空襲の被害を読み取ることができる。またインターネットで調べる内容の要点を絞ってまとめることができる。 (行動・ノート・発言)</p> <p>知 沖縄戦、広島・長崎への原爆の投下により、多くの人々が犠牲になって敗戦を迎えたことがわかっている。 (発言・ワークシート)</p>	<p>デ 空襲の被害を受けている様子の動画を見せ、空襲の恐ろしさと被害の大きさを感じさせる。</p> <p>イ コンピュータ室で調べ学習を行う。調べる際には、教師が、サイトを絞って紹介する。</p> <p>他 調べてまとめたノートをスキャナーで読み取らせ、プロジェクターに映し、発表させる。</p> <p>デ デジタル教科書の文章を提示して、より理解を深めさせる。</p> <p>デ 2つの歴史的背景を発表させた後、沖縄戦、広島・長崎の原爆投下などの動画を見せ、確認させ、より理解を深めさせる。</p>
生 か す	<p>⑧ 学習のまとめをする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・15年にわたる戦争を振り返り、学習問題について話し合う。 ・「戦争のぎせいになった子どもたち」を読み、対馬丸や自分たちの地域の犠牲者に関心をもつ。 ・話し合いの中から小単元の学習問題の結論を導き出す。 <p>※学習のまとめなので、これまでの学習場面を具体的に想起させ、デジタル教科書を使い、教科書の写真や動画を活用しながら、いろいろな立場から戦争について考えさせる。</p>	<p>思 「戦争のぎせいになった子どもたち」から対馬丸や自分たちの地域の犠牲者について、興味・関心をもって調べている。 (発言・ノート)</p> <p>思 学習問題の結論を話し合い、戦争に対する自分の意見を適切に表現している。 (発言・ノート)</p>	<p>デ 15年にわたる戦争を年表に整理していく。</p> <p>デ 対馬丸の生存者の話や対馬丸で亡くなった人の小桜の塔についての画像を流し、戦争で多くの犠牲者が出たことを理解させた上で、自分たちの地域の犠牲者について関心をもたせる。</p>
<p>学習問題の結論</p> <ul style="list-style-type: none"> ○「長く続いた戦争」とは、15年にわたる戦争で、はじめは中国と戦っていたが、次第にアジア・太平洋の地域に戦場が広がっていった。 ○各都市への空襲、沖縄戦や広島・長崎への原爆投下などにより日本に大きな被害を与えた戦争。 ○世界を巻き込んだ戦争でアジアの地域に大きな損害を与えた戦争。 ○そのころの人々のくらしは、戦争が生活に優先したり、大きな被害を受けたりして、苦しい生活をしてきた。 			

5 本時の学習指導 (7/8時)

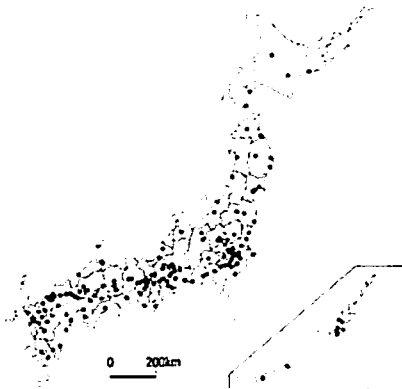
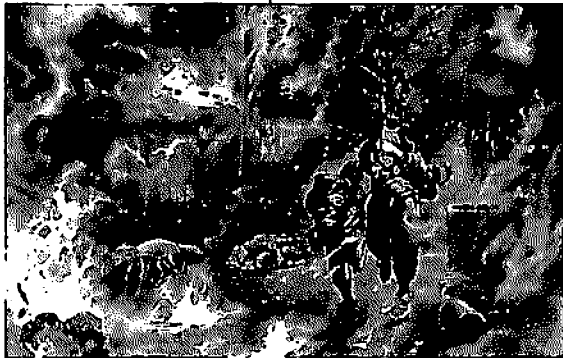
(1) 目標

沖縄戦、広島・長崎への原爆投下により、多くの人々が犠牲になって敗戦を迎えたことがわかる。

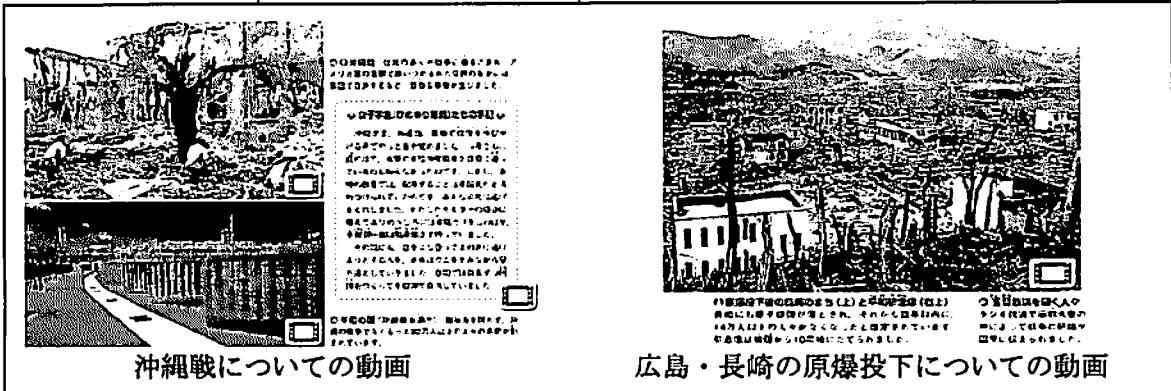
(社会的事象についての知識・理解)

(2) 展開 (評価と指導の工夫の「評」は評価するところ、→は目標に関わった指導を表している。)

学 習 活 動	学 習 内 容	評 価 と 指 導 の 工 夫	資 料 ・ 準 備	時 間
1 これまでの学習を振り返って、発表する。	○東京大空襲から始まり大都市へと空襲が続いたことの確認。	○既習の空襲で日本各地の都市が焼かれることを取り上げ、本日の学習内容についての過程を押さえる。	・教科書 P134～135	3
2 本時の課題を確認する。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>「原爆の投下と戦争の終わり」 日本は戦争でどのような被害を受け、どのようにして戦争はおわったのだろうか。</p> </div>	○本時で追求する柱について、掲示し、予想させる。 ・ 沖縄戦 「人がたくさん亡くなった。」 ・ 原爆による被害 「辺りが焼け野原になった。」 ・ 終戦 「戦争が終わった。」		2
3 敗戦に至る経過を確認し、被害の様子を自分で資料を使って、調べる。	○沖縄戦か広島・長崎の原爆投下についてのどちらかを選択して調べる。 ○沖縄戦の悲劇。 ・ひめゆり隊員。 ・平和の礎。 ○広島・長崎の原爆投下の悲劇。 ・原爆投下後の長崎のまち。	○当時の写真と照らし合わせながら、被害の大きさを数字からつかませる。 ○デジタルコンテンツによる情報提供を行い、より深く様子を感じさせる。	・教科書 P136～137 ・ワークシート ・デジタル教科書 ・mimio ・スクリーン ・プロジェクター ・スピーカー	10



<p>4 調べたことを発表し合い、まとめる。</p>	<p>○クラス全体で確認。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 沖縄戦。 ・ 原爆投下。 	<p>○全体で発表、共有させる、確認し合う中で、その被害の大きさを捉えさせる。</p> <p>○沖縄戦の悲惨さを映像で見せ、被害の様子を具体的につかませる。</p> <p>○原爆投下後の映像を見ることで被害の様子を具体的につかませる。 評</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 教科書 P136～137 ・ ワークシート ・ デジタル教科書 ・ mimio ・ スクリーン ・ プロジェクター ・ スピーカー 	<p>10</p>
----------------------------	---	---	---	-----------



<p>5 第二次世界大戦でなくなったアジアの人々の数を知る。</p>	<p>・ 第二次世界大戦でなくなったアジアの人々の数。</p>	<p>○アジア各国の被害について振り返り、中国や朝鮮（韓国）、台湾をはじめとする、アジアの人々の気持ちを考えさせる。</p> <p>○この戦争は日本だけで捉えるのではなく、世界全体で捉える目を持ちながら考えさせる。 評</p>		<p>5</p>
------------------------------------	---------------------------------	---	--	----------

中国	約1000万人
朝鮮	約20万人
東南アジア (ベトナム・フィリピン・インドネシア・インドなど)	約890万人
日本 (軍人)	約310万人
(民間人)	約80万人

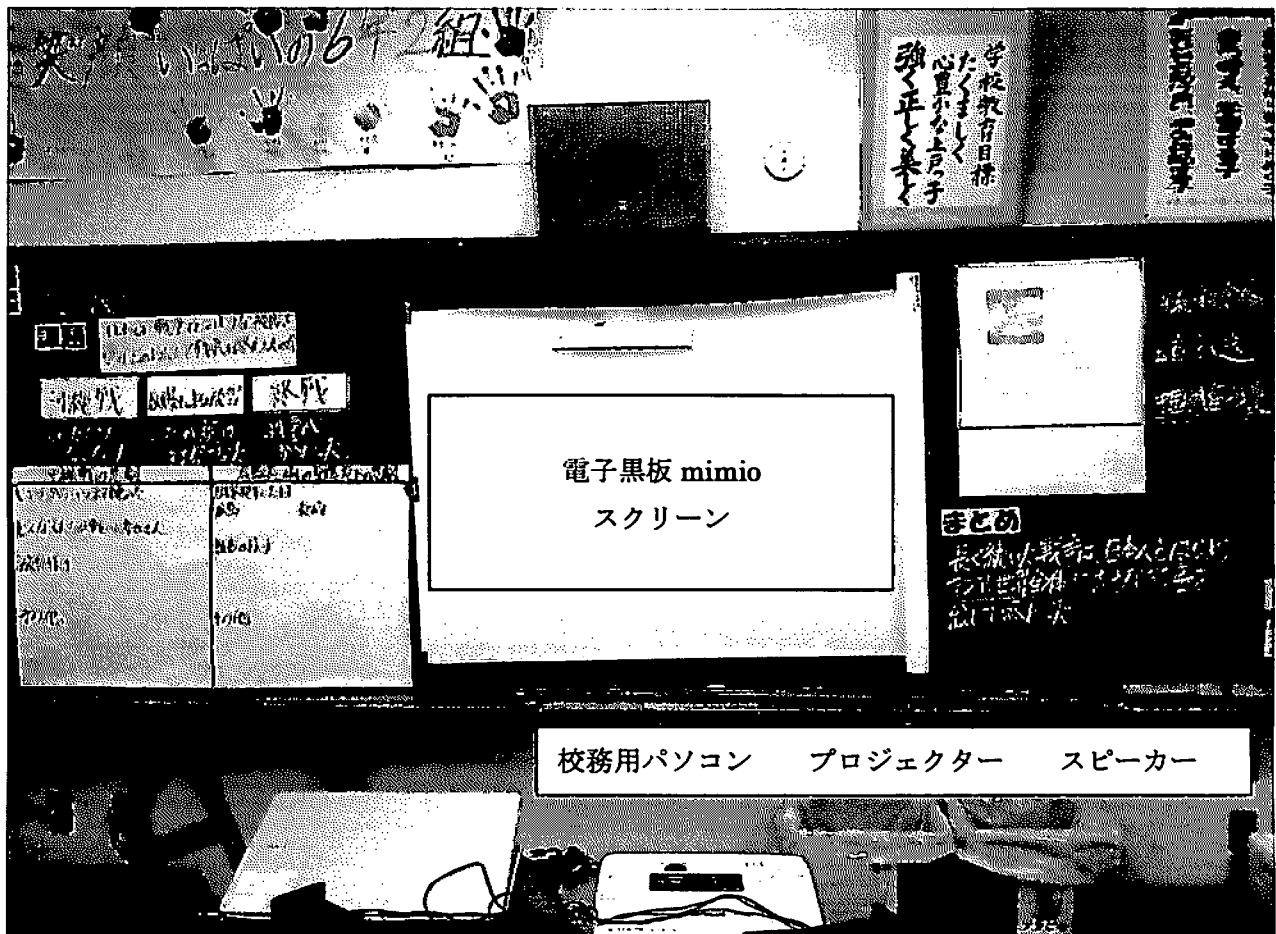
第二次世界大戦でなくなったアジアの人々

<p>6 アジア、太平洋各地で 15 年続いた戦争が終戦したことについて知る。</p>	<p>○平和祈念像の建てられた理由。</p> <p>○デジタルコンテンツで玉音放送を聞く。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 考えや感想をワークシートに記入。 	<p>○事実と意見を区別してワークシートに記入させる。感情のみにならないようにさせる。</p> <p>○国立公文書館アジア歴史資料センターのホームページから玉音放送をダウンロードして、聞かせる。<u>時間がない場合には、次時の「生かす」の時に聞かせる。</u> 評</p>	<div data-bbox="1204 1848 1412 2049" style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>パソコンにダウンロードした『玉音放送』約4分40秒</p> </div>	<p>10</p>
---	--	--	--	-----------

平和祈念像と玉音放送

<p>6 まとめをする。</p> <p>長く続いた戦争は、日本人をはじめ、アジア、世界全体に大きな被害を出して終わった。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・被害。 ・終結。 	<p>○これまで学習してきた戦争について、自分の考えや感想などを書き、「二度と戦争をしてはいけない」という気持ちを抱かせる。</p>	<p>・ワークシート</p>	<p>4</p>
		<p>〈評価〉</p> <p>沖繩戦、広島・長崎への原爆の投下により、多くの人々が犠牲になって敗戦を迎えたことがわかっている。【知】</p> <p>〈発言・ワークシート・ノート〉</p> <p>→なぜ終戦したのかを理解している児童には、より具体的な自分の考えや思いを持つように促す。</p> <p>→努力を要する児童には、沖繩戦、玉音放送など難しい語句が多く出てくるので、デジタルコンテンツを活用しながら、より丁寧な指導・支援を行う。</p>		
<p>7 次時の学習について連絡をする。</p>				<p>1</p>

(3) 板書計画



学力調査研究委員会

I 研究の概要

1 目的

川越市立小中学校の児童生徒を対象に実施した教研式標準学力検査（NRT）、川越市中学生学力調査、埼玉県学習状況調査等の結果を基に、川越市全体の学力の状況を分析・考察し、学力向上を目指した指導法の工夫改善に資する。

2 研究内容

- (1) 平成23年度川越市中学生学力調査、平成23年度教研式標準学力検査（NRT）、埼玉県学習状況調査（参考）の結果を分析する。標準学力検査及び中学校学力調査については経年変化を示す。
- (2) 国語、社会、算数・数学、理科、英語の教科部会毎に、川越市の傾向や課題をつかみ、課題解決のための具体的な指導方法を示す。
- (3) 各学校が自校で研修できるように、それぞれの調査等を分析し、活用できるような冊子及び電子データを作成し、平成24年度末までに各校に配布する。

3 研究実績

期 日	場 所	主 な 内 容
平成24年 8月28日（火）	教育センター	・ 委嘱交付 ・ 趣旨説明 ・ 本年度の推進計画 ・ 各教科部会
平成24年11月30日（金）	教育センター	・ 結果の考察 ・ 指導の手立てと検討 ・ 原稿の作成分担
平成25年 1月22日（火）	教育センター	・ 指導資料の原稿の検討・調整 ・ 各教科部会

II 各教科の取組

【国語科】

1 国語科における本市の傾向

(1) 教研式標準学力検査（NRT）の偏差値を見ると平成19年からの6年間の結果では、小中学校ともすべての学年で50を超えている。但し、全学年とも前年度より平均が下降している。これは昨年度まで、5段階で4にあたる児童生徒が多かった市の傾向が今年度は見られず、全国での比率に近くなったことで、平均が下がったと思われる。特に小学校においてこの傾向が顕著であった。

① 小学校では、小問において全国通過率と開きがあるのは主に言語事項である。第4学年ではローマ字を書く問い「そうだん」の通過率が35%、「ラッパ」が43%という結果で、習熟不足が原因と思われる。全学年に共通して低いのは漢字の読み書きで、第4学年の書き「鳴く」の通過率が49%、第5学年の読み「節」が43%、第6学年の読み「経る」が34%、書き「粉末」が34%であった。また、同音異義語の読み書きを苦手としている児童も多い。

② 中学校でも言語事項についての小問が全国通過率を下回っているものがある。漢字の読み書きがそれで、特に第1学年の書き「経て」の通過率は全国と比べ17%、書き「測量」が17%、第2学年の「垂らす」が14%、第1学年の送りがな「快い」が27%、「営む」が12%低くなっている。特に訓の語句の通過率が低い傾向にある。これには語彙が少ないということも原因の一つと思われる。主語を問う問題も通過率が30%以下のものがみられた。

(2) 川越市中学生学力調査の結果では、全体では1回目の得点率が58.3%で、2回目63.3%と高かった。小問では、読解「心情を捉える」「内容の要約」等、記述式の問いの正答率が30%以下と低く、また、無回答の率も高くなっている。言語事項では「四字熟語」と品詞の分類が正答率30%前後で、無回答の率も高かった。また、古典の読み取りも市平均正答率が30～40%という問いがみられた。

2 国語科における課題

「漢字の読み書き」や「四字熟語」などの力が不足している原因として、「語彙」の定着が図られていないことが考えられる。繰り返し学習できる指導の工夫をしていくことが大切である。そのためにも、教師間で指導事例やワークシートなどを紹介し合い、同じ言葉を繰り返し学習できる環境を作れるとよい。

文法やローマ字についても折に触れ、繰り返し指導するとともに資料を活用して定着を図らせたい。

3 指導の手立て

学力分析の結果から、「言語事項」に課題があることが明らかになった。一度習った言語事項の学習は、繰り返し学ぶことで定着が図られる。そこで、以下のような小中学校における指導の手立てを考えた。

(1) 小学校

ローマ字を定着させるには、どのような指導をしたらよいか。

- ① ローマ字の学習では、ただ繰り返し書かせるだけでなく、習った文字で単語を作りながら練習させていくことで意欲が高まり、使える文字としてローマ字を意識できるようになる。
その後、ア段、イ段、ウ段…と学習していくと、習得する文字も増え、作ることでできる単語の幅が広がる。
- ② フラッシュカードを利用した学習は単元の指導中はもちろん、折りにふれ繰り返して指導することができ、さらなる定着が期待できる。



同訓異字・同音異義語の習得に向けて、どのような指導をしたらよいか。

教科書の教材の扱い方としては、第4学年「まちがえやすい漢字」→第5学年「同じ読み方の漢字」→第6学年「漢字を正しく使えるように」という系統立てて扱われている。学習内容の定着を図るため、繰り返し取り組めるワークシートを作成した。

- ① 「あつい」「つとめる」「おさめる」「はかる」の4つの言語につき、1枚ずつのワークシートを作成した。児童にとって区別しにくい言語である。取り組むことにより、意味や使い方を深く追求できる内容とした。
また、第5学年12月の言語事項の授業後に活用できるワークシートを作成した。下部に答えを載せたので、自分の力に合わせて取り組むことができる。
- ② 同じ訓読みの漢字と同じ音読みの二字熟語の2種類のワークシートを作成した。下部に答えを載せたので、自分の能力に合わせた形で取り組むことができる。

(2) 中学校

熟語に対する関心を高め、語彙を豊かにするにはどのような指導をしたらよいか。

- ① 中学生になると、一時的な記憶はかなり高くなる。熟語を学習する際には、まずは覚える範囲と時間を決め、その中で自分がどれほど覚えられるかを知り、自信を持たせることからスタートできるとよい。ゲームのような競争を取り入れると、生徒の意欲もさらに高まる。目的や生徒の実態に合わせた方法を工夫したい。
- ② 類義語や四字熟語などの語彙を豊かにすることが、自分の思いをよりわかりやすく相手に伝える手段になることを、生徒に実感させることで学習意欲は高まる。日常生活で活用できる場面を想起させるなど、ゲームの勝敗だけに目がいかないように指導したい。

漢字学習への意欲を高め、また効率的に学習させるにはどのような指導をしたらよいか。

- ① 漢字の習得は、単元に沿って順番に覚えていくだけでなく、例えば「動物の名前を表す漢字」「体の一部分を表す漢字」「同じ音を持つ漢字」など、体系的に学習する機会を設けると、漢字を覚えることにおもしろさを見いだせる。漢字の構造や発音などについて気付かせることも期待できる。
- ② 同じ漢字について、音読みと訓読みを合わせて学習することで、漢字の書き取り問題に際し、音訓両方向から類推できるようになる。

文法をわかりやすく理解させ、興味を持って学習させるにはどのような指導をしたらよいか。

- ① 文法には、生徒にとって覚えなくてはならない用語や紛らわしい用例が多い。まずは生活の中で文法がどう活用されているのか、いかに大切なものなのかに気づかせることから始めたい。そして、正しい文法で書いた文章が、自分の思いを正確に伝えることにつながっていくことを実感させたい。

【社会科】

1 社会科における本市の傾向

- (1) 教研式標準学力検査（NRT）の偏差値を見ると、平成19年度から平成24年度までの5年間において、小学校第4・5学年は、平均値である50を上回っている。第6学年では、平成23年度までは、平均値の50を上回っているが平成24年度の様子を見ると、平均値を下回っている。
中学校は、平成19年度の第1学年で平均値の50を上回った以外は、全て平均値を下回る状態が続いており、学年が進むにつれ、偏差値が低下する傾向が見られる。
- (2) 小学校では、児童生徒の通過率を全国通過率と川越市通過率の比較から見ると、第4・5学年は、全国を上回っているが、第6学年は、全国を下回っている。小学校では、第4学年（内容は第3学年）と第5学年（内容は第4学年）の方位の読み取り問題の通過率が、それぞれ低かった。第6学年の用語・太平洋ベルトの通過率が、全国に比べて大きく下回っている。
- (3) 中学校では全国通過率と川越市通過率を比較すると、第1・2学年ともに下回っている。5段階出現率でも、1の割合が10%を超えており、特に第2学年では1と2を合わせた割合が40%を超えている。分野別に見ると、歴史的分野における通過率が他分野と比較して低く、全国通過率との開きがある小問が多いのも、歴史的分野である。特に鎌倉・室町時代の学習内容の理解において顕著である。
- (4) 中学校で実施されている「川越市中中学生学力調査」では、領域別に見ると、歴史的分野の設問で正答率の低い傾向が見られる。観点別に見ると、社会的な思考・判断・表現の設問で正答率が低い傾向が見られる。

2 社会科における課題

- (1) 小学校では、教研式標準学力検査（NRT）の結果から、「方位を読み取る」「事故と消防署の関係」「南端の島・沖ノ鳥島」「最長の川・信濃川」「用語・太平洋ベルト」等において正答率が低くなっている。その理由として、読図力の不足が考えられる。地図帳は、第4学年から使うことになっているが、授業中に開くことが少ないのが原因のひとつと思われる。常に手元に置いて、出来るだけ多く、授業で活用することが効果的である。
- (2) 中学校では、「歴史地図・壇ノ浦」や「年表・遣唐使の廃止」等で正答率が低くなっている。それぞれの時代の出来事や歴史的事象は理解しているが、断片的な知識であり、各事象の因果関係や歴史的意義、その後に与えた影響等を有機的に把握できていない。

- (3) 「川越市中学生学力調査」においても、社会的な思考・判断・表現を問う設問の正答率が低い。改善策として、時代ごとの学習の振り返りを行い、年表を積極的に活用し、歴史の大きな流れをつかむとともに、各事象の起きた理由や影響を考えさせる活動を授業に取り入れていくことが必要である。

3 指導の手立て

(1) 小学校

47都道府県を活用した方位及び位置関係の学習の工夫。

ここ数年、教研式標準学力検査（NRT）の結果からもわかるように、方位の読み取りの正答率が低くなっている。方位の学習は、暗記させるのではなく、児童の生活に関連させながら学習することが有効である。そこで、小学校においての47都道府県を活用した方位及び位置関係の学習の指導法を例示した。

(2) 中学校

歴史の大きな流れの中で各時代を理解させる指導の工夫。

学習指導要領の歴史的分野2内容（1）のウ「学習した内容を活用してその時代を大観し表現する活動」を年間指導計画に位置付け、歴史の大きな流れの中で各時代を理解させる指導の工夫改善について考えた。

① 各時代の学習の導入またはまとめとして

- ・人物カードにまとめる。
- ・各時代を代表する人物について、文章でまとめる。



- ・小学校の学習内容を生かし、各時代の学習における基点となる知識とする。

② 各時代の学習のまとめとして

- ・ウェビングマップを用いてまとめる。
- ・各時代の名称を中心に据え、その周りにその時代を表すキーワードとなる語句（人物名、事件、絵画や書物、建物などの文化、年号など）を記入させる。
- ・関連性のある語句を線でつなげていく。



- ・各時代の歴史的事象を有機的に関連づけることで、歴史の大きな流れを理解させることができる。

【算数・数学科】

1 算数・数学科における本市の傾向

- (1) 教研式標準学力検査(NRT)の川越市の結果によると、算数小学校第3学年(実施第4学年)の内容において、全ての領域で全国正答率を上回っている。第4学年の内容(実施第5学年)において「数と計算」領域で若干下回っており、「量と測定」領域において5.5ポイントと大きく下回っている。第5学年の内容(実施第6学年)において「図形」「数量関係」領域で3ポイント以上上回っているものの「数と計算」領域で4.5ポイント、「量と測定」領域で2.9ポイント下回っている。第6学年の内容(実施中学校第1学年)において「数と式」「資料の活用」領域で若干上回っており、「図形」「関数」領域で若干下回っている。
- (2) 中学校第1学年(実施第2学年)内容においては、「図形」「関数」領域では、全国の正答率を若干下回っている。しかし「数と式」では7.0ポイント上回っている。
- (3) 川越市中学生学力調査の結果でも、「図形」「関数」とともに低い結果であった。特に、「平面図形・空間図形」の平均正答率は30%以下であった。

2 算数・数学科における課題

- (1) 小学校第3学年の内容(実施第4学年)においては、小数や分数の意味理解において課題が見られる。「数直線上の小数、分数を読む」問題と「小数と整数の大小比較」の問題で正答率が全国平均を下回っている。これは、1より小さい数の理解が不十分であることが原因として考えられる。数の大きさについてテープ図などを用いて指導していくことが必要である。
- (2) 小学校第4学年の内容(実施第5学年)においては、量と測定の領域で課題が見られる。「面積の単位換算」の問題、「三角定規を用いた角」の問題で全国正答率を大きく下回っている。その原因として量感が十分育っていないことが考えられる。身近な具体物や三角定規などの教具を用いて量感を育てることが大切である。
- (3) 小学校第5学年の内容(実施第6学年)においては、分数の加法・減法、小数の除法において、全国平均を大きく下回っており課題といえる。これは第3学年の内容と同様、1より小さい数の習得が不十分であることが原因として考えられる。数の相対的な大きさ、例えば、1.68は0.01が168集まった数であることなどについて着目させることで、小数や分数の計算の意味や計算の仕方について十分理解させる必要がある。また、面積においても「ひし形の面積」「台形の面積」を求める小問において理解に課題が見られる。既習の求積可能な図形の面積の求め方を基に考えたり、説明したり、公式をつくり出したりすることや、その過程で筋道を立てて考える力を育成することが必要である。

- (4) 小学校第6学年の内容（実施中学校第1学年）においては、「展開図・四角柱」「四角柱の体積」「円柱の体積」が全国平均を下回っており、立体図形に課題があるといえる。その原因として、単位体積を基に考えることや高さを1 cm に切った立体の体積を基に角柱や円柱の体積を考えることの理解が不十分であることが考えられる。高さを1 cm に切った立体の体積をまず考えて、その体積の高さの分だけ倍にする考えを用いて体積を求めることをしっかりと指導していく必要がある。
- (5) 中学校第1学年の内容（実施第2学年）においては、特に「関数関係の事象」「表から範囲を求める」内容の習得が不十分である原因として「関数」や「範囲」といった言葉の定義の理解不足が考えられる。それは、例えば「1次関数」で y の増加量を求める問題で、 y の値を求めることと混同していること等にも見受けられた。つまり、言葉の意味や考え方の理解不足が課題の1つといえる。「平面図形・空間図形」では「球の体積」や「接線の作図」「図形の面積」の習得が不十分であった。「球の表面積・体積」では、新学習指導要領で新たに付け加わった内容なので、指導法のさらなる工夫・改善を図ることが課題である。また、「接線の作図」では作図方法を安易に覚えさせるのではなく、直径と接線が垂直に交わるという考え方を理解し、第3学年では円周角の関係にも発展することができるまで習熟を深めることが必要である。さらに、いくつかの図形が重なったり、点の移動によってできる面積や折り返したりすることでできる図形の面積を求める問題は、無回答が多い。これは、授業の課題として扱うだけでは、習熟は難しいことを示している。

小学校では、小数や分数に関わる内容においてできないものや、全国を下回るものが多く見られ、特に、小学校・中学校全般的に面積・体積など図形に関わる量と測定領域に課題が見られた。そこで、小学校においては、「小数・分数」について指導の手立て・指導資料を示した。また、中学校での課題である図形領域との関連を見据えて、「面積」についての指導の手立て・指導資料を示した。

3 指導の手立て

(1) 小学校

分数や小数を図や数直線を用いて表し、大きさを比べる算数的活動。

分数の学習は、第2学年の素地的学習を基に、第3学年で分数の意味や表し方、また、簡単な場合の加法・減法の意味や計算の仕方について学習する。

分数は、整数や小数と違って、分母と分子の2つの数字を用いて1つの数を表し、十進法で大小比較が考えられない場合があるなどの難しさがある。そこで、図や数直線に表し、視覚的にとらえて理解できるようにしていきたい。図や数直線に表すことは、分数は単位分数の幾つ分かで表せることの理解を深めるとともに、加法や減法の計算の仕方を考える際にも有効である。

0.66…というような循環小数になってしまうような場合でも $\frac{2}{3}$ と1つの数として表すことができ、任意に単位を選ぶことができるよさがある。

活動例 分数と小数の大きさを比べ方を考えよう。(第3学年)

$\frac{4}{10}$ と 0.6 では、どちらが大きいでしょうか。

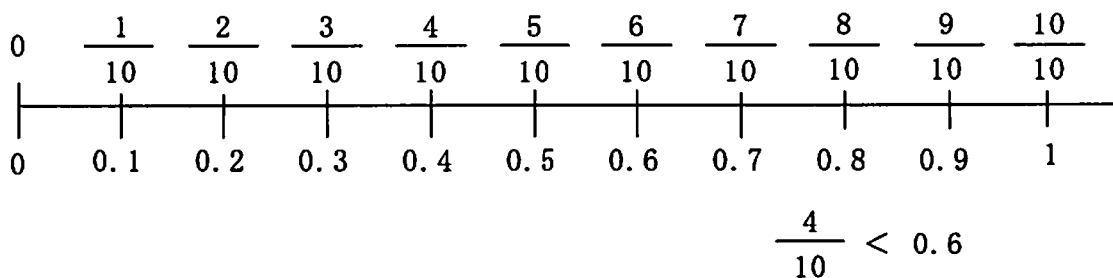
① 0.6を分数になおして考える。

0.6は、0.1の6つ分。0.1は、1を10等分した1つ分で $\frac{1}{10}$ と同じ。
だから、0.6は $\frac{6}{10}$ と同じ大きさ。 $\frac{4}{10} < \frac{6}{10}$ で $\frac{4}{10} < 0.6$

② $\frac{4}{10}$ を小数になおして考える。

$\frac{4}{10}$ は、 $\frac{1}{10}$ の4つ分。 $\frac{1}{10}$ は、1を10等分した1つ分で0.1と同じ。
だから $\frac{4}{10}$ は、0.4と同じ大きさ。 $0.4 < 0.6$ で $\frac{4}{10} < 0.6$

③ 数直線に表して考える。



角柱の体積の求め方を考えるための指導の工夫。

第5学年の体積の単位と測定では、面積を単位となる大きさを基に求めたことからの類推により、体積の測定は空間を隙間なく埋め尽くす立体図形が適当であることについて理解してきた。また、その立体図形としては1辺の長さでその大きさが決まる立方体が便利で、その一辺の長さが1 cm や 1 m のように長さの単位の大きさであるものがよいことについても理解してきた。

立方体及び直方体の体積の求め方では、立方体や直方体は、単位体積の立方体を積み重ねてつくることができることから、長方形の面積を求めた場合からの類推によって（直方体の体積）＝（縦）×（横）×（高さ）という公式を導くことになる。その際、単位体積の立方体をきちんと敷き詰めた1段分の個数を（縦）×（横）、その段の個数を（高さ）でそれぞれ表すことができることについての理解を確実にする必要がある。

角柱の体積を求めるには、立方体、直方体の場合の体積の求め方を基にして考えることが重要であり、直方体での1段分の個数を（縦）×（横）が（底面積）に当たるととらえることを確実に身につける必要があると考えられる。

(2) 中学校

面積を求める力を身につける指導の工夫。

中学校では円の面積や円周の長さについて学習する機会が少なく、円周の長さの求め方と円の面積の求め方を混同している場合が多い。また、数学科では学習内容の系統性が重視されており、学習内容が系統的・段階的につながっていく。学習を定着させていくために、小学校の高学年でも活用できるような練習問題も取り上げ、繰り返し指導していく必要がある。

面積や体積を求める求積はパズルのような感覚があり、問題が解けたときの喜びは学習を進める意欲や自信にも大きくつながる。そこで、授業の中にゲーム感覚で学習効率を高める方法を紹介したい。

【理科】

1 理科における本市の傾向

小学校第4学年～中学校第1学年について、教研式学力検査(NRT)における各中領域の全国通過率と本市の通過率とを比較検討した。その結果、以下に示した内容が全国通過率を大きく(5%以上)下回っていることがわかった。また、全国通過率を下回っている領域の数は以下の通りである。小学校第3学年以外は、どの学年も7割を超える領域で全国を下回っている。

	全国正答率を大きく下回っている領域	全国正答率を下回った領域の数
小3内容	なし	2領域 / 10領域
小4内容	○光電池の働き (-7.0%)	9領域 / 10領域
小5内容	○植物の発芽・成長・結実 (-9.0%) ○振り子の働きとそのきまり (-6.0%)	6領域 / 8領域
小6内容	○燃焼の仕組み (-8.4%) ○人の体のつくりとはたらき (-6.6%)	9領域 / 12領域
中1内容	○身近な生物の観察 (-5.4%) ○植物のなかま (-7.7%) ○火山と火成岩 (-5.1%)	9領域 / 11領域

また、中学校第3学年については、川越市中学生学力調査において、通過率30%を下回った小問内容は以下の通りである。

第1回	○時間と距離の関係(地震) ○特徴が同じ動物(動物の分類) ○水素の発生方法(気体の性質) ○水素の性質(気体の性質) ○消費する電力の比(電流) ○溶解度用語(水溶液の性質) ○梅雨明け(日本の天気)
第2回	○硫酸バリウム化学式(中和と塩) ○沈殿の質量の変化(中和と塩) ○天気図記号(気象観測) ○焦点距離(凸レンズ) ○像の位置と像の大きさ(凸レンズ) ○虚像(凸レンズ)

この分析結果をもとに、学習内容が定着するような指導方法の改善・充実を図っていく必要がある。

2 理科における課題

本市の課題として、小中学校ともに全般に渡って、学習内容の習得が不十分であることが挙げられる。しかも、ほとんどの領域で正答率が全国平均を下回っている。

この原因として、児童生徒の知識が断片的な状態であるため、学習直後のテスト等の正答率は上がるが、上記のような広範囲テストでは正答できないことが考えられる。また、断片的な知識では、将来役立つような生きた知識とはならず、理科の目標である「科学的な見方や考え方を養う」ことはできない。理科の学習にとって大切なことは、単元内の学習内容を関連づけて習得し、体系的でまとまった知識として理解することである。

そこで、体系的な「ひとまとまりの知識」をつくるという視点で、指導の手立てを示すこととした。

3 指導の手立て

(1) 小学校

単元としての断片的な学習ではなく、系統性と学習の積み重ねを重視し、児童自らが既習内容と関連付けることのできる「実感を伴った理解」の定着を図るための指導。

小学校における植物に関する指導内容は、下に示す通りで第3学年から第6学年の4年間に渡って、系統的・段階的に学習が進められる。例えば、第3学年で指導内容アー1「1年間の植物の成長」を学習し、第4学年でさらにそれを深めるため指導内容アー2「その成長には季節や気温が深く関係していること」を学ぶ。

ところが、児童にとっては、1つ1つの学習内容が独立し、系統的な積み重ねになっていないため、知識が断片的である。このことが、本学習領域の未定着の原因として考えられる。そこで、以下の2点を意識した指導を行っていく。

- ① 1年間を通して、既習事項を振り返りながら、新しい学習を積み重ねていくことのできる「ポートフォリオ形式の学習」を行う。
- ② 小学校の4年間、あるいは小中学校7年間かけて積み重ねていくという意識を持った指導を行う。

【各学年での植物に関する指導内容】

① 第3学年

「たねをまこう」「植物の育ちとつくり」「植物の一生」

アー1 種子は発芽、成長の後、結実し、その実の中には種子ができる。これはどんな植物にも当てはまる。

イー1 植物は根・茎・葉からできており、多くの植物に当てはまる。

② 第4学年

「春の自然」「夏の自然」「秋の自然」「冬の自然」「生き物の1年間」

アー2 植物の成長には、季節や気温が関係している。

③ 第5学年

「花のつくり」「植物の発芽と成長」「花から実へ」

イー2 植物にはおぼなとめばながあり、おぼなにはおしべが、めばなにはめしべがある。おしべにある花粉がめしべにつくことを受粉と呼び、受粉すると実ができる。

ウー1 植物の種子が発芽するためには「水」「空気」「適当な温度」の条件が必要である。また、発芽後に成長するためには「水」「肥料」「日光」の条件が必要である。これらを調べるためには、実験の際の条件制御が重要である。

④ 第6学年

「植物のつくりとはたらき」

イー3 植物には水の通り道がある。根から吸収された水は葉に送られ、気孔から蒸散する。

ウー2 植物は日光に当たると二酸化炭素を吸収し、酸素を出す。また、その際に自分でデンプンを作り出す。(光合成)

(2) 中学校

一つ一つの知識を断片的なものではなく、体系的な「ひとまとまりの知識」として、生徒に理解させるための指導。

各学期に行われる定期試験では、ある程度の点数を取れており、基本的な事項の理解はできてきているのだが、教研式標準学力検査（NRT）においては、第1学年、第2学年ともにほとんどの領域で全国平均を下回っている。この原因として、生徒が理科の学習を「機械的・断片的な暗記」で済ませる傾向が強いことが挙げられる。このような断片的な知識では、定期試験のような狭い範囲の試験には通用するが、NRTのような広範囲な試験には通用しない。ひいては、将来使える生きた知識にはならない。そこで、普段の授業から、知識が断片的にならず体系的なひとまとまりの知識となるよう意識して授業を行う必要がある。そこで、次の4点を意識した指導を行っていく。

- ① 目的を明確にして観察・実験を行う。
- ② 既習事項や新しい学習事項を関連づけながら「ひとまとまりの知識」となるような指導を行う。
- ③ 日常生活や社会との関連を重視して、身近な知識と科学的な知識が結びつくような指導を行う。
- ④ 体系的で「ひとまとまりの知識」を形成する手助けとなるように理科室前の掲示物の工夫をする。

【第1学年「植物の世界」での具体例】

- ① 小学校で学習した「めしべに花粉がつくと…」を復習しながら、観察「花の分解」を行う。このとき、観察の目的を単なる花の解剖ではなく、「胚珠を発見させること」に設定する。このことにより、観察の目的を明確にして、「受粉の後、子房が成熟して果実となり胚珠が種子となる」ことを体系的な知識として習得できるように指導する。
また、ピーマンやリンゴ、枝豆などのスーパーマーケットの店頭に並んでるような果実を観察することで、身近な知識と科学的な知識が結びつくように指導する（実生活との関連）。
- ② 理科室前に、「植物の世界」の学習内容をまとめる掲示物を作成する。「胚珠」「被子植物」などの重要語句を中心にして、単元全体の内容が俯瞰できるような内容にする。重要語句を厚紙等で隠し、めくると答えがわかるような工夫をしてもよい。また、生徒の観察レポートや生徒が作成したプレパラートの顕微鏡写真などを掲示物に加える。授業の進度に合わせて、中単元ごとの掲示物にすると効果的である。第1学年のみならず、第2学年、第3学年にもよい復習になる。

【英語科】

1 英語科における本市の傾向

(1) 教研式標準学力検査（NRT）の結果を見ると、4領域（書く〈W〉・話す〈S〉・聞く〈L〉・読む〈R〉）の内、今年度については、昨年度同様、すべての領域において正答率の全国平均を超すことができていた。しかし、「書くこと」だけが正答率50%を超えておらず、前年度も同様の結果となっている。指導の工夫を図る必要がある。特に、基本的な語句を使って表現する力が弱く、単語だけでなく、語句として理解をし、活用する力を身に付けさせるべきである。

(2) 川越市中学校学力調査において得点率は、5教科の中で第1回目52.0%、第2回目50.9%と中位である。昨年度と同様に、条件作文などの「表現力」「知識理解力」が弱く、「表現力」は、正答率20%を、「知識理解力」は10%を超えていない問題も見られた。

これらの結果から、「書くこと」「読むこと」に課題が見られるので、自分のことを表現する自己表現活動や対話文の読み取りにおいて会話の流れや長文の要約を練習する必要があると考えられる。

2 英語科の課題

(1) 教研式標準学力検査（NRT）や川越市中学校学力調査の結果から「基本的な単語や英文を書くこと」と「適切な語句を使って書くこと」が課題としてあげられる。そこで、英単語や基本英文の書き取り練習を習慣化させていくことで基礎学力を定着させる必要がある。

(2) 問題によって正答率に大きな差が見られる。英単語をひとつひとつ確実に理解することや活用する場から読解力をつけることが課題としてあげられる。そこで、まとまりのある英文や物語を読む力を養うために、生徒が興味をもつ様々なジャンルの資料や教材を提示する必要がある。

3 指導の手立て

- (1) 覚える習慣をつけさせるための単語の書き取り指導。

[該当学年：中学1年～3年]

英単語練習シートを活用して英単語の書き取り練習を行う。教科書で学んだ既習の単語を毎週10題ずつ練習する。その際、つづりと読み方に注意して発音した上で書き取り練習を行うようにする。練習シートには、アクセントとなる所をひらがな表記にしている。さらに、英単語チャレンジシートを活用し、確かめを行う。

- (2) 基本英文を暗記し、活用できるようにするための指導。

[該当学年：中学1年～3年]

教科書の必須基本文の音読練習、書き取り練習を繰り返し、暗記させることで文法事項の定着を図り、条件作文等の表現活動に対応することができるようにする。また、定期的に空所補充式等の問題演習を行い、語彙文法事項などの言語材料の定着を図る。

- (3) 長文の読解を通して物語をイメージする活動。

タイトル：「Kurazukuri」

[該当学年：中学3年]

我が町川越の伝統文化に関する「蔵造り」についての物語を熟読し、既習の単語や文法を振り返りながら英文の読解に取り組ませたい。また、物語を通じて出てきた構文などを活用して、川越について自己表現する力も同時に付けさせたい。

教育に関する3つの達成目標推進研究委員会

I 研究の概要

1 目的

教育に関する3つの達成目標について本市の実態に即した研究を行い、目標の達成に向けた教育活動を活性化させ、学力向上・規律ある態度の育成・体力向上のバランスのとれた成長に資する資料を作成する。

2 研究の方針

- (1) 「生きる力と絆の埼玉教育プラン—埼玉県教育振興基本計画—」に示された施策指標の進捗状況を踏まえるとともに、平成24年度指導の重点・努力点及び川越市教育振興基本計画に基づく。
- (2) 昨年度までの研究成果を踏まえ、今年度は小・中学校9年間の学びと育ちの連続性に焦点をあてた研究を行う。
- (3) 本市の現状と課題を踏まえた資料を作成し、提供する。

3 研究の経緯

回	期 日	内 容
第1回	7月10日(火)	・委嘱書交付 ・全体会(研究方針、実施計画) ・各部会(研究内容の検討、役割分担)
第2回	7月下旬から8月上旬	・各部会(研究内容、作成資料の検討)
第3回	8月下旬から9月下旬	・各部会(作成資料の検討、修正)
第4回	11月30日(金)	・全体会、各部会(研究紀要の検討)

II 本市の現状と課題

今年度の効果の検証結果から、達成率は概ね上昇傾向であることがわかった。特に小学校で達成率が昨年度から向上している。その一方で、以下の項目において達成率が低く、今後の課題となった。

「読む・書く」

- ・段落の内容やつながりを考えながら読み取ること(小学校・中学年)
- ・文章のまとまりを考えて改行して書くこと(小学校・中学年)

「計算」

- ・整数の除法、小数の乗法や除法、三角形の面積や直方体の体積の求積

(小学校)

- ・方程式、連立方程式、二次方程式、式の値、因数分解(中学校)

「規律ある態度」

- ・あいさつをすること、学習の準備を整えて授業にのぞむこと、(小学校)
- ・身の回りの整理整頓をすること、進んであいさつをすること、話をしっかりと聞き、自分の考えを伝えること(中学校)

また、新体力テストの結果から、県平均を上回る種目は増加傾向にあるが、下回る項目も依然として多い。「体力」については、運動量の豊富な授業実践、児童生徒が意欲的に取り組む体育的活動の充実等をとおし、自分の体力に応じた目標を達成できるようにさせたい。

課題については、小・中学校共通の項目も多い。達成率の低い項目について、連携を図りながら具体的な手立てを講じることが必要である。

Ⅲ 各部会の取組

【読む・書く部会】

1 研究の概要

平成23年度「教育に関する3つの達成目標」の取組に係る効果の検証結果によると、小・中学校とも、「書く」に課題があることがわかる。そこで、「読む・書く」部会では、主に段落意識、理由を表す表現を中心に指導できるよう、条件作文のワークシート等を作成し、各校に提供することとした。

《平成23年度「教育に関する3つの達成目標」検証テストの結果》

領域	実施学年	平均達成率
読む	小1～中3	93.9%
書く(作文)	小2～中3	90.7%
言語事項	小1～小4	96.4%
漢字	小1～中3	96.7%

2 実践例

(1) 「書く」に焦点化したワークシート

小学校2～6年生用として各学年4枚ずつ、中学校用として4枚を作成した。

小学校2年生については物事の順序、小学校3年生以上については理由を表す表現を中心に指導できるような条件文とした。

学校の実態に応じて題材を変えて活用できるよう電子データで各校に送付するとともに、教育センターのホームページに掲載した。また、児童生徒が学習を振り返ることができるように自己評価欄を設けた。

(2) 保護者用啓発プリント

家庭の理解と協力を得るための資料として、次ページのような保護者用資料を作成した。表面には「教育に関する3つの達成目標」における「書く」の学習目標や本市の課題を示した。裏面にはワークシートのポイントを紹介し、家庭での学習や振り返りに活用できるようにした。

<p>学校新聞だ、読んだ行軍」という題で読者を呼ぶことになりました。</p> <p>次の点に注意して書きましょう。</p> <p>※注意すること</p> <p>① 題名や前飾は書かないで、本文から書きましょう。</p> <p>② 二つの段落は書きましょう。</p> <p>③ 一日の段落に、どんな行事が楽しかったかを書きましょう。</p> <p>④ 二つの段落には、なぜそのように思うのか、理由を詳しく書きましょう。</p> <p>⑤ 八行以上で書きましょう。</p> <p>☆書き終わったら、生徒さんに①の○ができているかチェックしましょう。(きいていたら、②の○を書きましよう)</p>										5年生 №2
<p>「読む・書く」の学習目標</p>										5年 名前() 組
8行)

保護者様

教育に関する3つの達成目標



「書くこと」の力を伸ばそう

～「豊かな学力」は基礎・基本の定着から～



1180-4444-7777-1166

＜教育に関する3つの達成目標＞

「教育に関する3つの達成目標」は、平成17年1月に、小・中学校の子どもたちを対象として、「学力」、「規律ある態度」、「体力」の3つの分野について、学習指導要領に基づき、その学年で確実に身に付けさせたい基礎的・基本的な内容として取りまとめたものです。

平成17年度から県内すべての公立小・中学校が「教育に関する3つの達成目標」実現に向けての取組を開始しました。各学校では、子どもたちに達成目標の内容を確実に身に付けることができるよう指導体制や指導方法の工夫・改善を行い、その結果を絶えず検証しながら、学校教育の質的な充実に向けています。

この取組を更にあるものにするためには、学校だけでなく家庭の御理解と御協力が必要です。家庭学習に取り組みせたり、お子様と一緒に教科書を御覧いただいたりするなど、学校の学習によって、「学力」達成目標がどの程度身に付いたかを確かめていただくなどの御協力をお願いします。

＜教育に関する3つの達成目標「書く」の学習目標＞

【小学校1・2年】

- したことや見たこと、思ったことを、相手に分かるように、順序を考えて書くことができるようにしましょう。
- のぼず音（長音）、小さい「や、ゆ、よ」（撥音）、小さい「っ」（促音）、「ん」（撥音）や「は」「へ」「を」（助詞）を文の中で正しく使えるようにしましょう。

【小学校3・4年】

- 文の意味を考えて読点（。）を打ったり、文章のまとまりを考えて改行したりすることができるようにしましょう。

【小学校5・6年】

- 事実と自分の考えを区別して書くことができるようにしましょう。
- 目的や相手、種類や方法を考え、文章を書くことができるようにしましょう。

【中学校1年】

- 伝えたい内容について、自分の考えを根拠を明らかにして書くことができるようにしましょう。

【中学校2年】

- 伝えたい内容や自分の意見について、説明や具体例を加えて書くことができるようにしましょう。

【中学校3年】

- 論理の展開を工夫し、資料を適切に引用するなどして、説得力のある文章を書くことができるようにしましょう。

＜平成23年度「教育に関する3つの達成目標」検証テストの結果（川越市）＞

	読 心	書く（作文）	言語事項	漢 字	達成率
小学校1年	97.6%	91.7%	95.3%	95.5%	96.1%
小学校2年	96.9%	91.7%	96.1%	95.6%	95.1%
小学校3年	91.5%	86.9%	96.5%	97.4%	93.1%
小学校4年	92.9%	85.2%	97.6%	95.7%	92.8%
小学校5年	93.1%	89.9%	—	96.6%	93.2%
小学校6年	96.6%	94.1%	—	96.3%	95.6%
中学校1年	92.6%	93.6%	—	96.9%	94.3%
中学校2年	88.4%	93.9%	—	97.5%	93.3%
中学校3年	95.7%	90.5%	—	98.4%	94.9%

※他の領域と比べ「書く」の正答率が低くなっている。（中学校1・2年を除く。）




「注意する点」は、教育に関する3つの達成目標「書く」の学習目標を基に設定された条件です。


理由を書くときには、くわしく、具体的に書くようにします。

（「へ」「ん」とは「理由がいくらかある」「色・形・数・時間・量・質など、物事の様子が表示できる」「感じたことや思ったこと、意見などが表現できる」ことを指します。）

よって、一つ目の段落を書くことになる話題も、「くわしく理由が書けるものをつくりと考えることが重要になります。」



段落や改行の注意を  できています。

 の部分には、理由を述べるときに積極的に使いたい表現を添えています。

くから（だから）です。

ためです。

理由はです。

など

段落の終わりを空けて改行する。

学級新聞に、「楽しかった行事」という題で記事を書くことになりました。

次の点に注意して書きましょう。

※注意する点

- ◎ 題名や名前は書かないで、本文から書きましょう。
- ① 二つの段落で書きましょう。
- ② 一つ目の段落には、どんな行事が楽しかったかを書きましょう。
- ③ 二つ目の段落には、なぜそのように思ったのか、理由を書きましょう。
- ④ 八行以上で書きましょう。



段落の始めは、1文字分（1ます）空ける。

解答例

四年生で一番楽しかった行事は、九月に行った運動会です。

なぜなら、運動会の練習を通して友達とはげまし合ったり、教え合ったりすることができたからです。また、大変な暑さの中、きびしい練習を乗り越えることで、心も体も大きく成長することができたように思えますからです。

(3) ワークシート模範解答と評価例

採点基準について、教師が共通理解できるようにするため、ポイントを提示した模範解答を作成した。ポイントについては、「注意点に沿って書くこと」「理由を表す表現を用いること」に焦点化した。

① 小学校低学年

2年生
「EVJ」SRWSHW-1
二冊 (8) 組

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

2年生
「EVJ」SRWSHW-1
二冊 (8) 組

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

- 順序を表す言葉が適切に使われているので称賛した。
- 改行の指示はないので、第一文に続けて書くよう指導した。あわせて、改行する場合は、段落の終わりは空けることを指導した。

② 小学校高学年

5年生
「EVJ」SRWSHW-1
五冊 (8) 組

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

5年生
「EVJ」SRWSHW-1
五冊 (8) 組

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

① ② ③ ④ ⑤ ⑥ ⑦ ⑧ ⑨ ⑩ ⑪ ⑫ ⑬ ⑭ ⑮ ⑯ ⑰ ⑱ ⑲ ⑳ ㉑ ㉒ ㉓ ㉔ ㉕ ㉖ ㉗ ㉘ ㉙ ㉚ ㉛ ㉜ ㉝ ㉞ ㉟ ㊱ ㊲ ㊳ ㊴ ㊵ ㊶ ㊷ ㊸ ㊹ ㊺ ㊻ ㊼ ㊽ ㊾ ㊿

- 段落、理由を表す表現について意識して書かれていることを称賛した。
- 第二段落をより詳しく書こうとして枠を超え、時間もなくなってしまったが、理由が書かれているので可としている。

③ 中学校

<p>「ENVYU」SRV100</p> <p>ENVYU SRV100</p>		<p>年 級</p> <p>三年 級</p> <p>() 部 () 組</p>
<p>① 11月10日(水) 11月11日(木) 11月12日(金) 11月13日(土) 11月14日(日) 11月15日(月) 11月16日(火) 11月17日(水) 11月18日(木) 11月19日(金) 11月20日(土) 11月21日(日) 11月22日(月) 11月23日(火) 11月24日(水) 11月25日(木) 11月26日(金) 11月27日(土) 11月28日(日) 11月29日(月) 11月30日(火) 12月1日(水) 12月2日(木) 12月3日(金) 12月4日(土) 12月5日(日) 12月6日(月) 12月7日(火) 12月8日(水) 12月9日(木) 12月10日(金) 12月11日(土) 12月12日(日) 12月13日(月) 12月14日(火) 12月15日(水) 12月16日(木) 12月17日(金) 12月18日(土) 12月19日(日) 12月20日(月) 12月21日(火) 12月22日(水) 12月23日(木) 12月24日(金) 12月25日(土) 12月26日(日) 12月27日(月) 12月28日(火) 12月29日(水) 12月30日(木) 12月31日(金)</p>	<p>② 11月10日(水) 11月11日(木) 11月12日(金) 11月13日(土) 11月14日(日) 11月15日(月) 11月16日(火) 11月17日(水) 11月18日(木) 11月19日(金) 11月20日(土) 11月21日(日) 11月22日(月) 11月23日(火) 11月24日(水) 11月25日(木) 11月26日(金) 11月27日(土) 11月28日(日) 11月29日(月) 11月30日(火) 12月1日(水) 12月2日(木) 12月3日(金) 12月4日(土) 12月5日(日) 12月6日(月) 12月7日(火) 12月8日(水) 12月9日(木) 12月10日(金) 12月11日(土) 12月12日(日) 12月13日(月) 12月14日(火) 12月15日(水) 12月16日(木) 12月17日(金) 12月18日(土) 12月19日(日) 12月20日(月) 12月21日(火) 12月22日(水) 12月23日(木) 12月24日(金) 12月25日(土) 12月26日(日) 12月27日(月) 12月28日(火) 12月29日(水) 12月30日(木) 12月31日(金)</p>	<p>③ 11月10日(水) 11月11日(木) 11月12日(金) 11月13日(土) 11月14日(日) 11月15日(月) 11月16日(火) 11月17日(水) 11月18日(木) 11月19日(金) 11月20日(土) 11月21日(日) 11月22日(月) 11月23日(火) 11月24日(水) 11月25日(木) 11月26日(金) 11月27日(土) 11月28日(日) 11月29日(月) 11月30日(火) 12月1日(水) 12月2日(木) 12月3日(金) 12月4日(土) 12月5日(日) 12月6日(月) 12月7日(火) 12月8日(水) 12月9日(木) 12月10日(金) 12月11日(土) 12月12日(日) 12月13日(月) 12月14日(火) 12月15日(水) 12月16日(木) 12月17日(金) 12月18日(土) 12月19日(日) 12月20日(月) 12月21日(火) 12月22日(水) 12月23日(木) 12月24日(金) 12月25日(土) 12月26日(日) 12月27日(月) 12月28日(火) 12月29日(水) 12月30日(木) 12月31日(金)</p>

<p>「ENVYU」SRV100</p> <p>ENVYU SRV100</p>		<p>年 級</p> <p>三年 級</p> <p>() 部 () 組</p>
<p>① 11月10日(水) 11月11日(木) 11月12日(金) 11月13日(土) 11月14日(日) 11月15日(月) 11月16日(火) 11月17日(水) 11月18日(木) 11月19日(金) 11月20日(土) 11月21日(日) 11月22日(月) 11月23日(火) 11月24日(水) 11月25日(木) 11月26日(金) 11月27日(土) 11月28日(日) 11月29日(月) 11月30日(火) 12月1日(水) 12月2日(木) 12月3日(金) 12月4日(土) 12月5日(日) 12月6日(月) 12月7日(火) 12月8日(水) 12月9日(木) 12月10日(金) 12月11日(土) 12月12日(日) 12月13日(月) 12月14日(火) 12月15日(水) 12月16日(木) 12月17日(金) 12月18日(土) 12月19日(日) 12月20日(月) 12月21日(火) 12月22日(水) 12月23日(木) 12月24日(金) 12月25日(土) 12月26日(日) 12月27日(月) 12月28日(火) 12月29日(水) 12月30日(木) 12月31日(金)</p>	<p>② 11月10日(水) 11月11日(木) 11月12日(金) 11月13日(土) 11月14日(日) 11月15日(月) 11月16日(火) 11月17日(水) 11月18日(木) 11月19日(金) 11月20日(土) 11月21日(日) 11月22日(月) 11月23日(火) 11月24日(水) 11月25日(木) 11月26日(金) 11月27日(土) 11月28日(日) 11月29日(月) 11月30日(火) 12月1日(水) 12月2日(木) 12月3日(金) 12月4日(土) 12月5日(日) 12月6日(月) 12月7日(火) 12月8日(水) 12月9日(木) 12月10日(金) 12月11日(土) 12月12日(日) 12月13日(月) 12月14日(火) 12月15日(水) 12月16日(木) 12月17日(金) 12月18日(土) 12月19日(日) 12月20日(月) 12月21日(火) 12月22日(水) 12月23日(木) 12月24日(金) 12月25日(土) 12月26日(日) 12月27日(月) 12月28日(火) 12月29日(水) 12月30日(木) 12月31日(金)</p>	<p>③ 11月10日(水) 11月11日(木) 11月12日(金) 11月13日(土) 11月14日(日) 11月15日(月) 11月16日(火) 11月17日(水) 11月18日(木) 11月19日(金) 11月20日(土) 11月21日(日) 11月22日(月) 11月23日(火) 11月24日(水) 11月25日(木) 11月26日(金) 11月27日(土) 11月28日(日) 11月29日(月) 11月30日(火) 12月1日(水) 12月2日(木) 12月3日(金) 12月4日(土) 12月5日(日) 12月6日(月) 12月7日(火) 12月8日(水) 12月9日(木) 12月10日(金) 12月11日(土) 12月12日(日) 12月13日(月) 12月14日(火) 12月15日(水) 12月16日(木) 12月17日(金) 12月18日(土) 12月19日(日) 12月20日(月) 12月21日(火) 12月22日(水) 12月23日(木) 12月24日(金) 12月25日(土) 12月26日(日) 12月27日(月) 12月28日(火) 12月29日(水) 12月30日(木) 12月31日(金)</p>

- 段落の最初が一字分下げられていない作文、段落途中だが下がり気味の作文が数点あったので、一字下げの部分と行の先頭から書く部分がはっきり分かるように指導した。
- 一段落目には、簡潔に自分の意見だけを書くように指導した。
- 二段落目の理由の書き方については、「なぜなら、・・・から（だから）です。」または「その理由は・・・から（だから）です。」にするように指導した。
- 「具体的な体験」を入れるように指示がある場合、「こんな体験をしました。」または「こんな話を聞きました。」という言葉を入れるように指導した。

3 成果と課題

(1) 成果

- ・ 検証に向けて各学年4枚のワークシートを計画的に実施することにより、児童生徒は順序や理由を明確にした文章を書く技能を身に付けることができる。
- ・ 指導のポイントを示した模範解答により、採点基準がより明確になり、教師或いは学校による差を軽減することができる。
- ・ 啓発プリントにより保護者の関心を高めるとともに、「書くこと」における学習内容の理解や協力を得ることができる。

(2) 課題

- ・ ワークシートをさらに開発、公開するとともに、実施の場や機会について各学校の理解と協力を求めていく。
- ・ 模範解答をより詳しく分かりやすいものとし、さらに国語主任会と連携を図ることで教師或いは学校による採点の差を無くしていくようにする。
- ・ ワークシートの取組により条件作文の書き方に習熟させるとともに、テーマに即した取材選材の能力を国語科の学習と関連させて身に付けさせていく。

【計算部会】

1 研究の概要

これまで「計算部会」では、「教育に関する3つの達成目標」の取組として、「できるかな?」テスト・「できたかな?」カルテ、「計算すごろく」等を作成した。そして、それぞれの学校で実態に応じて活用されてきた。また、昨年度は「できるかな?」テスト・「できたかな?」カルテを新学習指導要領の内容と照らし合わせ、作成し直した。「計算すごろく」は、家庭での取組も呼びかけ、連携を図りながら計算の確実な習得を推進してきた。

昨年度まで「できるかな?」テスト・「できたかな?」カルテは、主に小学校で実践してきた。それは、小学校は朝の時間や授業の数分間に学校で統一して取り組んだり、担任裁量で時間を設定したりすることがしやすいからと考える。中学校では、学校全体で時間を統一して「できるかな?」テスト・「できたかな?」カルテに取り組むことが難しいため、取組の実践例が少なかった。しかし基礎的・基本的な学力を身につけるため、今年度は中学校でも実践し、取組の仕方や成果について考察した。

また、本年度は冬季休業中に取り組める「冬休み すらすらプリント!」を作成した。これは、各学年10枚ずつ冬季休業中に家庭学習として取り組むもので、昨年度の検証テストで本市の課題となっている項目を、重点的に繰り返し取り入れた。解答編を作成し、保護者が丸付けを行う等、家庭とも連携して基礎基本の確実な習得を目指した。

2 実践例

(1) 「冬休み すらすらプリント!」の活用の仕方

冬休み すらすらプリント!

名 姓 _____ 年 組 番 _____

小5-3

① 次の口にあてはまる数を図きましよう。

$\frac{1}{3} \times 4 = \frac{4}{3}$

$\frac{1}{4} \times 5 = \frac{5}{4}$

$\frac{1}{8} \times 40 = \frac{40}{8}$

② 次の分数を約分して、できるだけかんたんにしましょう。

$\frac{2}{6} = \frac{1}{3}$

$\frac{7}{14} = \frac{1}{2}$

$\frac{8}{12} = \frac{2}{3}$

③ 次の三角形の面積を求めましよう。

①

$$8 \times 4 \div 2 = 16$$

②

$$16 \text{ cm}^2$$

② 底辺が6cm、高さが5cmの三角形の面積を求めましよう。

$$6 \times 5 \div 2 = 15$$

②

$$15 \text{ cm}^2$$

よくできました!!

冬休み すらすらプリント!

名 姓 _____ 年 組 番 _____

中1-6

① 次の計算をしなさい。【正・負の数の計算】

$3 + (-7)$

$2 - (-6)$

$2 - 3 \times 2$

② 次の計算をしなさい。【文字を含んだ式の加法・減法】

$7a + 3b$

$3a - 2 + 4a - 5$

③ 次の計算をしなさい。【文字を含んだ式の加法・減法】

$3x + 7$

$(-4x) + (-1)$

$2(3x - 4)$

$-2(4x - 3)$

$9(x + 12) + 3$

$5(2x - 1) + 4(x - 7)$

$3x + 4$

$2(3x + 2) - 3(x - 1)$

10×25

昨年度見直した「できるかな？」テスト・「できたかな？」カルテは、各学年で基礎的・基本的な問題に年間を通して計画的かつ繰り返し取り組むことで、計算力の確実な習得を図ることがねらいである。

昨年度の川越市における各学年の検証テストの正答率を見ると、基礎的・基本的な問題にも課題が見られた。

例えば、小5の三角形の面積、中1の文字式の計算 $3(x+2)+4(x-1)$ などである。こうした問題は、繰り返し取り組むことでより確実に習得される。検証テストが行われる1月は、冬季休業を挟んでいるために、1、2学期を通して習得されてきたものを忘れてしまう可能性も考えられる。そこで、今年度は、冬季休業中に取り組むことができる「冬休み すらすらプリント！」を作成した。このプリントには、本県でも課題となっている数量関係の問題、昨年度検証テストの結果から正答率の低かった項目を重点的に取り入れた。

～冬季休業中の取組例～

- ☆ 「冬休み すらすらプリント！」を各学年10枚取り組む。
- ☆ 各学年1枚の解答編と一緒に配布し、家庭で丸付けを行う。
- ☆ HPからプリントアウトし、必要に応じて家庭で繰り返し取り組む。

このように、基礎的・基本的な内容を「冬休み」という短い期間で繰り返し取り組むことで、基礎的・基本的な問題の確実な習得を目指す。

中学校も同様に、「冬休み すらすらプリント」を作成し、活用を呼びかけた。

(2) 「できるかな？」テストの活用の仕方（中学校）

昨年度までに作成した「できるかな？」テストの中学校での活用の仕方を検討した。

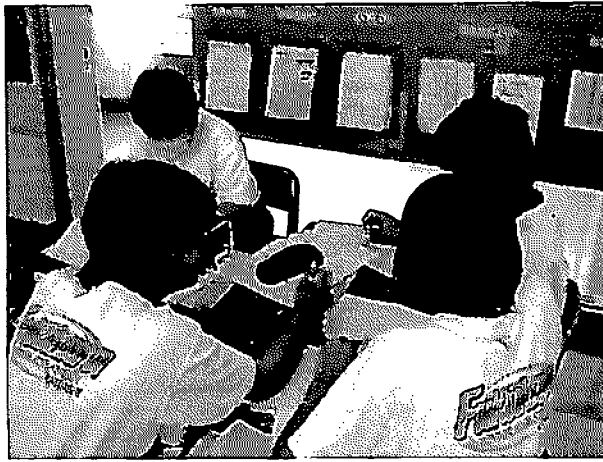
例えば、章や単元の終わりに演習問題に取り組む際に、10分間程度で活用する実践を行った。

～具体的な実践例～

（中学校数学の授業の中での取組）

- ☆ 章や単元の終わりに演習問題に取り組む際に、10分間程度時間をとって取り組ませる。早く終わってしまう生徒には、他の問題にも取り組ませる。
- ☆ グループに分け、グループごとに答え合わせをさせる。
- ☆ 分からないところは答えを伝えるだけでなく、解き方についても教え合うように指導しておく。

このように、基本的な流れを作っておくことで、自習の時間や授業の始めの時間を使って取り組ませることができる。また、一度取り組んだ問題を多めに用意しておき、個別に家庭学習のために渡したり、補習の時間に活用したりすることもできる。



グループごとに答え合わせをしたり、教え合ったりする生徒。短時間でも効率よく学習できる。

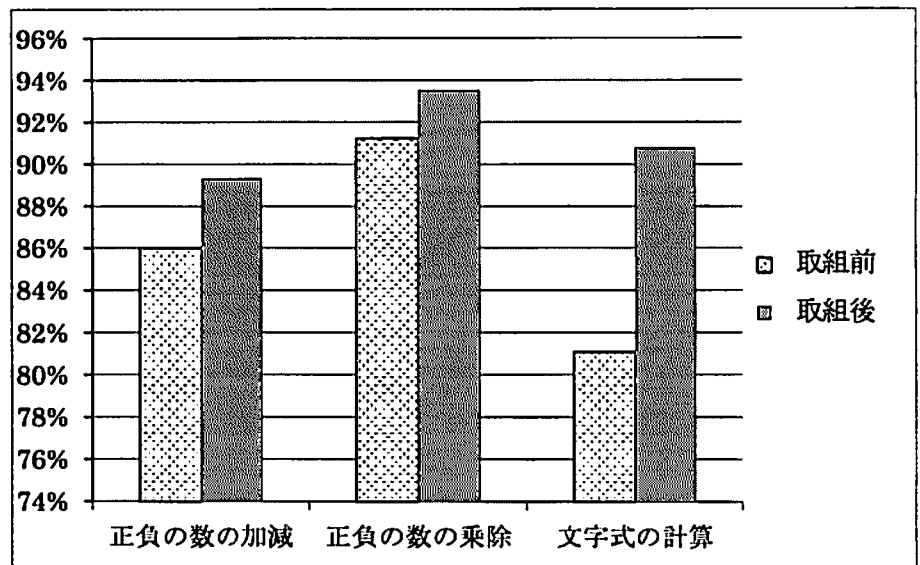
3 成果と課題

実践例の(2)において、「できるかな？」テストを各クラスで取り組む前に、昨年の3つの達成目標の検証問題を、行った後に一昨年の検証問題を行い、単元ごとに正答率を比較した。

結果は、右のグラフのようになり、どの範囲においても、2~8ポイントの改善が見られた。

9割にも届いていない

単元があるのは課題であるが、数回行うだけでも効果が見られたのは成果である。「冬休みすらすらプリント」も含めて、繰り返し行っていくことで、さらなる効果が期待される。



【規律ある態度部会】

1 研究の概要

今年度本部会では基本的な生活習慣や学習規律を着実に身につけさせるためには、児童生徒の主体的な取組を充実させることが大切であると考えた。そこで、小中連携の観点から児童会、生徒会活動の実践例を示すこととした。

2 実践例

〈小学校の取組〉

(1) 児童会による「あいさつ運動」

① ねらい

児童会活動の一つとして「あいさつ運動」に取り組み、あいさつを通してよりよい校風をつくろうとする意欲を高め、規律ある態度の意識化を図る。

② 実施方法

ア 「あいさつ週間」

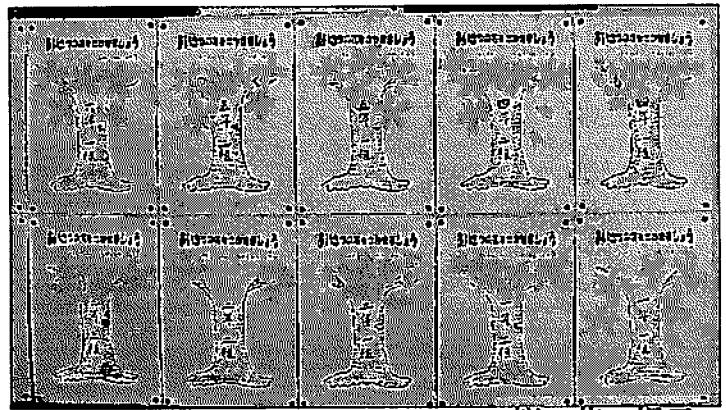
1、2学期に「あいさつ週間」を設ける。評価カードを利用して、自己のあいさつについて振り返り、心のこもったあいさつをしようとする意欲を喚起していく。また、実践の様子を家庭に知らせ、連携を図りながら実践意欲を高めていく。

イ 「あいさつ運動」

3学期の朝の「あいさつ運動」では、児童会委員が作成した桜の花びらを配布する。あいさつをした児童が桜の花びらを集め、学級ごとに桜の花を作っていく。できあがった桜の花を児童会室廊下に掲示し、自分や友達のあいさつについて振り返り、心のこもったあいさつをしようとする実践意欲をさらに高めていく。



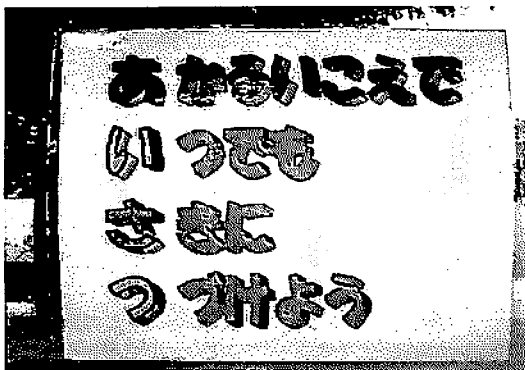
「あいさつ運動」の様子



桜の花の掲示

ウ 校内環境の整備

学校に気持ちのよいあいさつの声があふれるように、校内にあいさつを呼びかける掲示をする。



下校時のあいさつの様子

③ 実践結果

- ・ 自分で目標を決めて取り組むことで、よりよいあいさつをしていこうとする姿が見られた。
- ・ 児童会の取組による桜の花の掲示は、児童の関心を集め、さらに気持ちのよいあいさつができるように、お互いに声をかけ合う姿が見られた。

④ 取組の成果と課題

- あいさつは自分も相手もよい気持ちになる「魔法の言葉」だということを知り、気持ちのよいあいさつの大切さに気付き、明るいあいさつをしたいという心情が深まった。
- 家庭におけるあいさつも大切にできるようになり、家族や地域の人にも進んであいさつをする児童が増えた。
- △ 登校時は、自分から進んであいさつをする児童がなかなか増えなかった。笑顔で大きな声で気持ちのよいあいさつができるように、継続して呼びかけていくことが必要である。

(2) 児童会による規律ある生活をめざす「夏休みのめあて」

① ねらい

乱れやすい夏休みの生活を、自分たちで立てためあてに向かい、規則正しく送ろうとする態度を育成する。

② 取組の方法

ア 児童会で夏休みのめあてを『3つのあ』に決定し、取組について役割分担をする。

『あいさつ』……「おはよう」「こんにちは」「ありがとう」など、地域の人にも元気よくあいさつする
 『あさごはん』…毎朝きちんと早起して、規則正しい生活をする
 『あそぶ』…… 暑さに負けず外で元気に遊んだり、進んで体力づくりに取り組んだりする

イ 児童会便り、昼の放送で全校に知らせる。

ウ 特活便り、特活部会で、職員の共通理解を図る。

エ 個人のがんばりカードを、夏休みの他の課題と一緒にとじる。

オ 2学期に代表委員がカードを回収し、目標の達成度に応じて大きさの異なる色分けした夏模様の手作りシールを配布する。

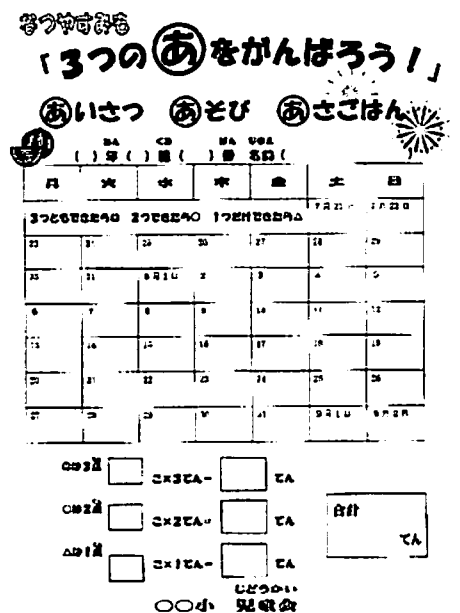
カ 花火の図柄の描かれた台紙にシールを貼り、花火を完成させて掲示する。

キ 全校に結果を知らせるとともに、代表委員会で取組の反省をする。

ク 取組の様子を学校便り等で家庭や地域にも知らせる。

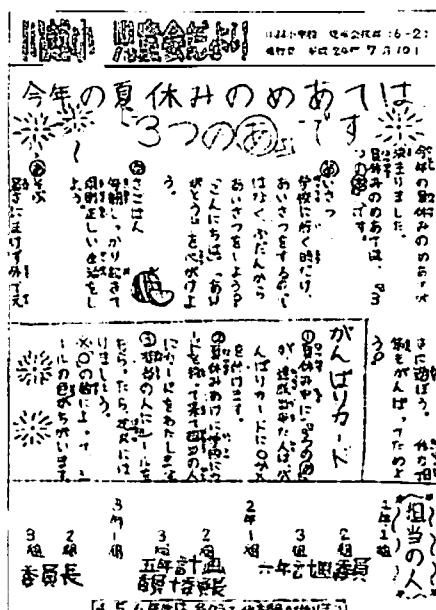
③ 実践結果

- ・ 猛暑と言われる厳しい暑さの続く夏休みであったが、外遊びや運動を楽しんだ児童が多かった。
- ・ 個人差はあったが、どの項目も達成率は高かった。
- ・ 出来上がった大きな花火の掲示物は児童や保護者の関心を集め、取組に満足感を感じていた。



④ 取組の成果と課題

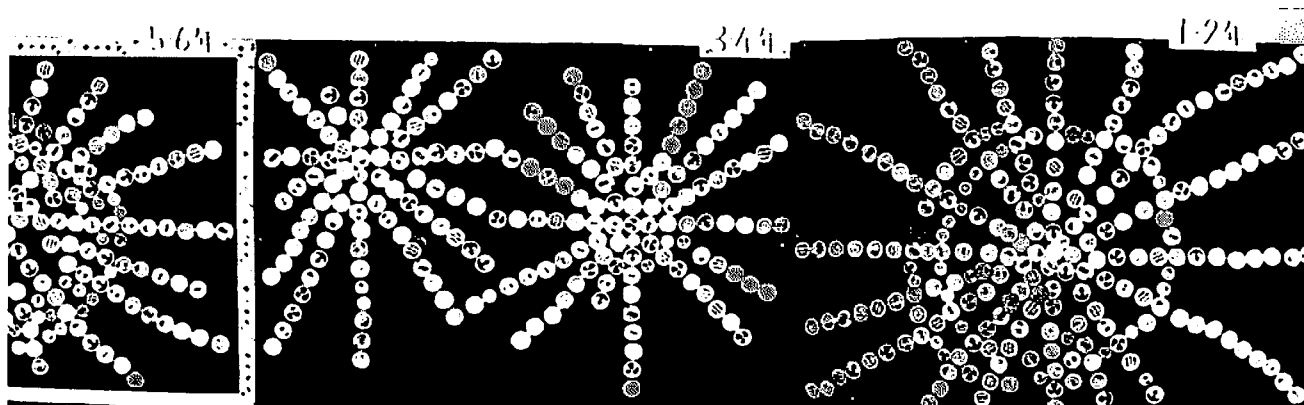
- 児童が、自分の生活を振り返り課題を的確にとらえて決めためあてであったため、低学年にも理解でき、取組がしやすかった。
- これまで夏に関係する言葉を決め、それを頭文字にしてめあてを決めるということが多かったが、『3つのあ』と言うのは分かりやすかった。
- 全員のがんばりで花火ができあがり、掲示物としても目を引く上、成果が一目で分かるという点でもよかった。
- △ 夏休みのめあてに対する意識は、これまでそれほど高くなかったが、このような創意工夫ある取組を継続することで、規則正しい生活を送ることができるようにさせたい。
- △ 学年によっては夏休みの生活表に同様の項目があり、カードの記入を負担に感じる児童もいた。職員間で共通理解を図りたい。



《掲示物作成手順》

- 1 夏休みに記入したがんばりカードを見ながら、点数に合わせた色のシールを配布する。
花火シールの色
合計点数 30点以下 (水色)
50点まで (ピンク)
60点まで (緑)
70点まで (オレンジ)
70点以上 (黄色)
- 2 配布されたシールにのりをつけ、児童会室へ移動する。
- 3 低・中・高学年ごとのに台紙に貼る。

夏休みのめあて花火



児童会室廊下の掲示

〈中学校の取組〉

(1) チャイム着席点検の実施に向けて

① ねらい

異年齢集団活動を生かした委員会活動を通し、委員長を中心とした話し合い活動を活発にし、生徒の自治的能力を高める。

② 実施方法

ア 実施時期の見直し

4月…服装点検、チャイム着席点検の時期を話し合う。名札をつけていない生徒が多いので、点検活動ではなく毎朝の呼びかけを行うことを決める。

5月…点検活動のためのポスターの作成(チャイム着席点検と服装点検)。各クラスの生活委員が呼びかけを行い、絵の得意な生徒や美術部に依頼した。昨年度までは点検にあわせて作成していたが、3年生の提案により『よいものを作り次の学年に残していく』ことにした。年間を通して使えるよう、あえて日にちは入れず、点検活動中はこのポスターを掲示することで生徒の意識を高めることとした。

6月…3年生を中心に、点検の方法、日にち等の原案を作成する。

7月…期末テストが終わり、授業に集中しにくい時期に実施することを、3年生の提案により決定する。



イ 各学年の目標を決めるための話し合い活動

各クラスの現状を話し合う。チャイム着席点検を通し、どのようにクラスや学年を変えていきたいのかを確認する。学年ごとの目標を決め、生徒朝会で委員長が全校生徒に話し、自分たちの学校を自分たちの手で作り上げていくことの大切さを訴える。

目標

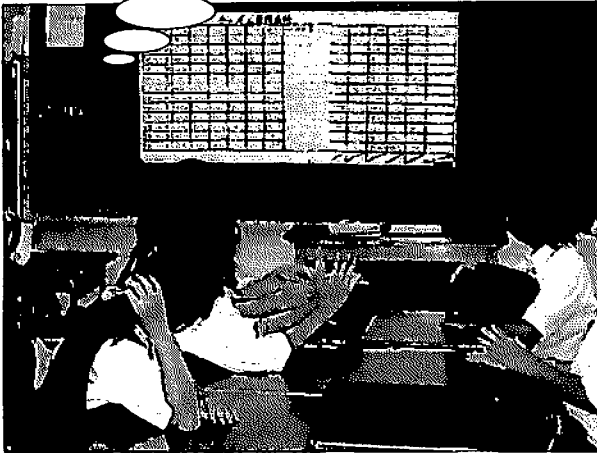
- 1年 ・チャイム着席は、今もできているので、さらに続けていけるようにする。
- 2年 ・チャイム着席を通し、休み時間と授業のけじめをつけられるようにする。
- 3年 ・チャイムと同時に、授業が開始できるようにする。

ウ 次の課題の話し合い

テスト終了後に1週間点検を行う。その後、委員会を開き、クラスごとに結果の考察と次の課題を話し合う。委員長の点検を受け、全校生徒が見られるよう職員室前の記録用紙に記入する。

クラスによって偏りが…
もう1週間あれば、よくなり
そう…

教室のときは着席できている人が多かったけれど、移動教室では着席できる人が少なかったの
で、呼びかけていきたい。



1週間点検を終えての話し合い

点検結果を見て、クラスにより偏りがあることがわかった。呼びかけが少なかったことが原因としてあげられた。

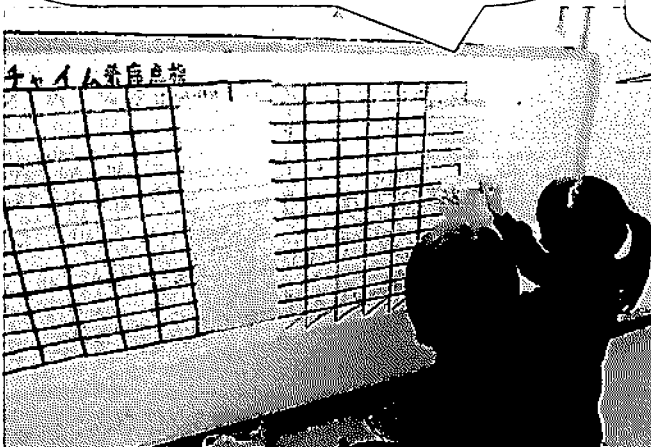


3年生の提案により、さらに1週間点検活動を続けていくことを決めた。終業式直前まで実施した。どのクラスも生活委員の活動により実践意欲が高まった。

生活委員が積極的に呼びかけを行ったところ、後半は0人にすることができた。

2学期になって名札をつけない人がいるので、生活委員として呼びかけを続けていきたい。

前半は座っていない人が多かったが、後半は呼びかけることによって、人数が減った。移動教室の時も、時間よりも少し早く座れた。2学期は、着席以外に名札をつけるよう声をかけたい。



記録用紙への記入

各クラスの反省と課題を確認し、委員長と副委員長が記録用紙に記入した。

次は、名札を含めた服装点検を実施することを決定した。

(2) 取組の成果と課題

○ 点検活動の時期、方法など、3年生を中心に自分たちで考え実施することにより、様々なアイデアが話し合いの中で出された。話し合いをすすめる中で、少しずつ約束や決まりを守るという意識が高められてきた。

△ さらに生徒同士で声を掛け合いながら、よりよく生活できるように継続指導したい。

【体力部会】

1 研究の概要

全国的に子どもの体力の低下が叫ばれて20年以上となる。全国的に様々な体力向上のための取組が行われた結果、近年ではその低下に歯止めがかかり、若干の上昇傾向が見られるようになった。しかし、体力が最も高かった1985年頃の状態には未だ及ばない状況である。

本県における体力向上については、教育に関する3つの達成目標において「県体力標準値」が定められ、「なわとびチャレンジ」「すくすくプログラム」等様々な取組が推進されてきた。新体力テストにおける「A・Bランク50%以上」「A・B・Cランク80%以上」という目標の達成も間近になった。

しかし、本市では依然として体力低下が大きな課題となっている。経年変化では若干の上昇が見られるものの、県体力標準値との比較では、各項目のほとんどが県の値を下回っている。本市の現状として、一般的にいわれている体力低下の要因「空間がない・時間がない・仲間がない」の「3間がない」の条件が当てはまることも多く、小さい頃からの運動経験不足もその一因と考えられる。特に小学校においては深刻な状況がある。

そこで、本部会では児童生徒の体力向上をねらい、運動経験を増やすこと、生活の中で自主的に運動に親しませることをテーマにして話し合いを進めた。その結果、児童生徒が自主的に運動に取り組みやすく、かつ、先生方が授業で活用できるカードを作成することにした。

児童生徒の自主的な運動を促進する手立てとして「体力貯金カード」「マラソンカード」の作成を行った。「体力貯金カード」については、柔軟性・逆さ感覚・バランス（平衡感覚）・握力・投力・筋力・持久力の7項目について、それぞれ偏りがないように運動項目を定めた。また、「マラソンカード」については観光地である川越の名所を写真で示し、児童生徒が興味を持ちながら持久走に取り組めるように工夫した。

また、先生方が授業で活用できる「なわとびカード」を作成した。多くの技を簡単な跳び方からスモールステップで紹介し、小・中学校9年間を通して活用できるように工夫した。さらに、基礎編・発展編に分け、各自の力に合わせて活用できるようにした。

本部会は、上記の3種類のカードを全校に電子データで配信し、各学校の児童生徒の実態に応じた活用を推進することで、市全体としての体力の向上をねらいとする。

2 実践例

(1) 体力貯金カード

① 作成の目的

体力の低下は、日常的に運動をする機会の減少に一因があると捉えた。そこで、児童生徒が自主的に運動に取り組み習慣が身に付くようなカードを作成した。カードは、継続しやすいように、生活の中で簡単に取り組むことが

でき、家の中でも行える運動項目を取り上げ、偏りなく体力向上が図れる内容とした。さらに、広く、日常的に運動する大切さを意識付けるため、家庭への協力を呼びかけた。

② 内容

低学年にもわかりやすいよう運動項目を図で示した。また、体力標準値を掲載し、自分の体力と比較して具体的な目標を持って取り組めるようにした。

☆運動をしたら得点を記録しましょう！
☆毎日続けて体力貯金をしましょう！

種目	得点	種目	得点
長縄跳び 1分	1点	ボール遊び 10回	2点
フリック 1分	2点	かたまり 10回	2点
縄跳び 1分	2点	短距離走 10回	5点
縄跳び 1分	1点	タオム スロー 10回	5点
縄跳び 1分	2点	キャッチボール 10回	5点
縄跳び 1分	3点	うでたて 1回	1点
縄跳び 1分	2点	上押こし 1回	1点
縄跳び 1分	5点	縄跳び 1回	1点
縄跳び 1分	5点	縄跳び 1回	5点

11月 体力貯金をしよう！

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
合計得点	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35

11月 体力貯金をしよう！目標せ1000点！

日	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
合計得点	5	5	10	30	30	80	10	10	10	20	50	10	10	10	20	30	40	50	10	20	50	10	10	10	20	10	20	30	40	50	

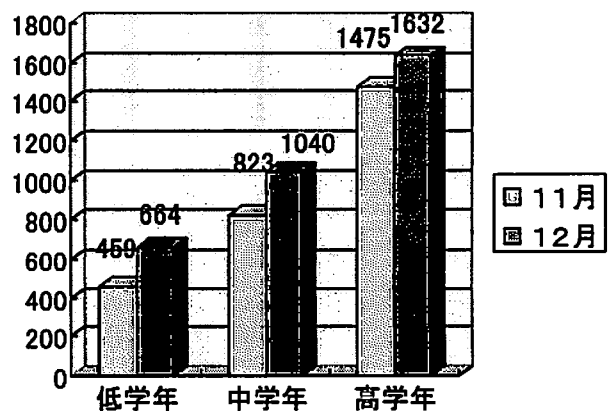
③ 小学校の実践における成果と課題

ア 成果

1 1月から全学年で実施するとともに、体力向上便りや保護者会を利用して家庭に協力を呼びかけた。また、児童には「月合計1000点」を目標に、自主的に取り組むよう指導した。

1 1月はまわりの様子を伺いながら取り組む児童もいたが、慣れてくると、高得点をとることに喜びを見だし、積極的に様々な運動に挑戦する様子が見られた。また、高学年は運動項目のバランスを考え偏りなく取り組めた。1 2月は21日間ではあったが、どの学年も前月上回る結果となった。

体力貯金 月合計得点平均値の変遷



イ 課題

運動項目が固定されているので、1年間取り組ませていく中で児童の興味・関心を持続させていくことが課題となる。項目は変えず、種目を学期ごとに変える等の工夫をしていくことも考えられる。また、種目についても個に応じて発展的な内容を設定することも検討したい。

③ 中学校での実践における成果と課題

ア 成果

多くの生徒が、日常的に運動を意識して生活するようになった。保護者からもよい取組として続けて欲しいという意見が寄せられた。

イ 課題

毎日継続することが大切であるが、生徒によっては課題のある運動項目より好きな運動項目に優先して取り組む傾向がある。事前指導を徹底し、目的意識を持った取組となるよう指導する必要がある。また、カードの中に教師のチェック欄を設け、個々の取組の様子を把握していきたい。

小江戸マラソン大会記録表

種目	01	02	03	04	05	06	07	08	09
男子	8	11	19	15	17	20	25	31	37
女子	8	12	14	17	20	22	25	28	29
男子	12	15	17	19	21	22	25	30	32
女子	11	14	19	19	20	21	22	25	26
男子	20	23	30	32	34	35	41	45	50
女子	20	31	32	35	35	41	45	47	49
男子	25	32	35	40	43	47	49	52	55
女子	25	30	34	33	41	44	45	48	45
男子	-	-	-	-	-	-	400	391	359
女子	-	-	-	-	-	-	233	280	294
男子	18	23	28	45	50	64	73	88	90
女子	18	22	29	38	45	51	55	64	62
男子	118	127	122	97	83	65	55	40	79
女子	110	114	105	100	92	82	80	67	67
男子	117	123	129	142	157	167	182	199	218
女子	103	124	122	141	150	169	182	172	174
男子	9	12	17	21	25	29	33	22	25
女子	8	8	10	13	15	17	18	14	15

川越市立 小江戸マラソン大会
 川越市立 小江戸マラソン大会
 川越市立 小江戸マラソン大会
 川越市立 小江戸マラソン大会



(2) 小江戸マラソンカード

① 作成の目的

持久力は体力の中でも運動の基盤となる力であり、川越市内の多くの学校が、持久走大会等の取組をしている。そこで、持久走大会等の練習により意欲的に取り組ませるため、市内（小江戸）の名所巡りをしながら楽しく練習できるカードを作成した。

② 内容

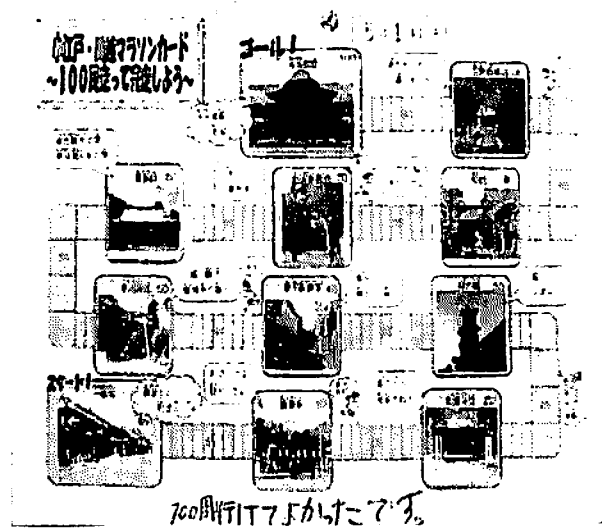
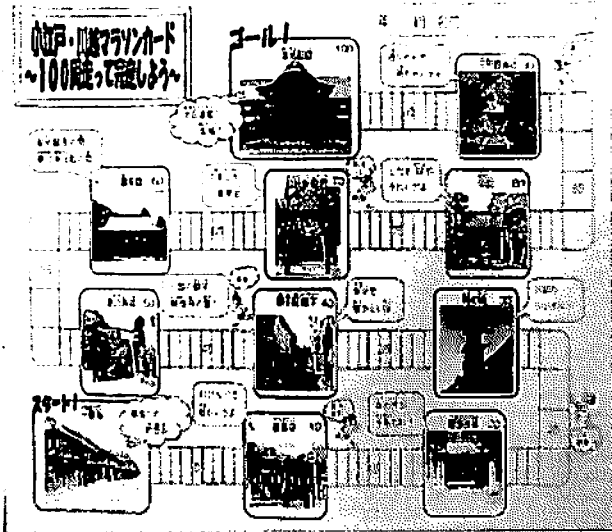
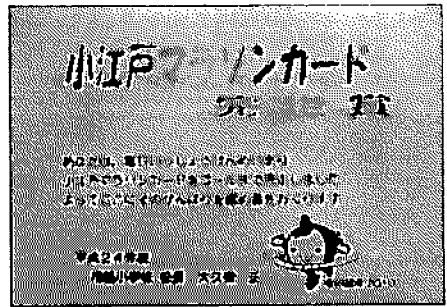
体育の授業、休み時間、朝マラソン等で運動場を1周走る毎に1マス色を塗っていき、100周でゴールとなる。

また、ゴールした児童については完走賞を渡し、2枚目のカードに取り組ませて意欲の喚起を図った。



1周走ったら、
1マス進める！

ゴールまで完走
した人は完走賞
がもらえます。



③ 成果と課題

ア 成果

学校全体で取り組み、児童生徒は意欲的に練習に取り組めた。ゴールまで完走したいという目標があったので意欲も持続した。カードに色を塗ることを楽しみに自主的に練習する姿が増加した。小学校低学年では8割以上の児童が完走することができた。また、廊下に掲示することで、友達と励まし合ってカードを塗る姿も見られた。

イ 課題

スタートを自校にするなどの工夫をするとより意欲が高められる。また、完走賞やその表彰は各学校で工夫し、意欲の向上を図る手立てとしたい。

(3) なわとびカード

① 作成の目的

なわとびカードは多くの学校で活用しているが、小・中学校共用の活用例は少ない。そこで、小・中学校での学びの連続性を考え、共用できるカードの検討を行った。そして、小・中学校の技能の段階を明記し、検定級を増やす工夫をすることで継続して取り組めるカードを作成した。

② 内容

各種の跳び方で指定された回数を跳ぶことができたなら、そのまずに色を塗っていき、その級のまず全てに色が塗れたら合格となる。1級から20級という多くの検定級を設定することにより、小学校低学年児童から中学校の生

徒までが使える内容にした。また、達成目安の学年を入れることによって、技能の向上と取組への意欲喚起を図った。カードは基本編とチャレンジ編があるので、1級の児童もさらに発展的な目標を持ち続けることができる。

基本編

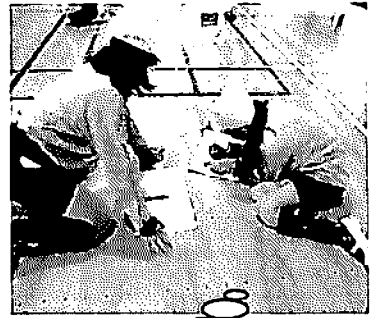
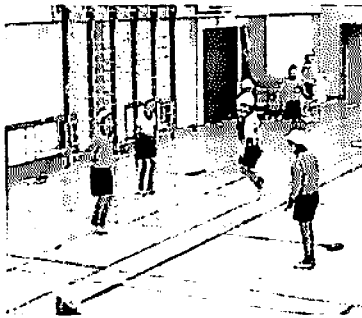
学年	1学年					2学年					3学年					4学年									
合格																									
1級	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	200	210	220	230	240	250
2級	10	20	30	40	50	60	70	80	90	100	110	120	130	140	150	160	170	180	190	200	210	220	230	240	250
3級	2	4	6	8	10	12	14	16	18	20	22	24	26	28	30	32	34	36	38	40	42	44	46	48	50
4級																									
5級																									
6級																									
7級																									
8級																									
9級																									
10級																									

基本編

学年	1学年					2学年					3学年					4学年									
合格	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
1級	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
2級	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
3級	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
4級	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
5級	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
6級	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
7級	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
8級	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
9級	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕
10級	①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪	⑫	⑬	⑭	⑮	⑯	⑰	⑱	⑲	⑳	㉑	㉒	㉓	㉔	㉕

チャレンジ編

学年	1学年										2学年										3学年										4学年																			
合格	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
1級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
2級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
3級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
4級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
5級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
6級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
7級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
8級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
9級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50
10級	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31	32	33	34	35	36	37	38	39	40	41	42	43	44	45	46	47	48	49	50



やったあー！これで7級クリア

③ 成果と課題

ア 成果

児童生徒は目標を明確に持ち、意欲的に取り組めた。また、数え合ったり、跳び方を教え合ったりすることで、友達とのかわりも増えた。カードに色を塗ることを楽しみに、休み時間等にも自主的に練習する姿が見られた。1つの級を合格するためには、いろいろな跳び方をする必要があるため、跳び方の幅も広がった。

イ 課題

その級の全ての跳び方ができないと合格にならないので、なかなか進級できない場合があり、支援が必要である。また、跳び方の名称だけでなく、跳び方の絵図などがあるとさらにわかりやすい。

小学校外国語活動研究委員会

1 研究の概要

(1) 目的

今年度から外国語活動の教材が「英語ノート」から「Hi, friends!」に変わったことを受け、指導案例を提示する。また、小中連携した英語教育を充実させるため、小学校への出前授業等で活用できる事例や、中学校1年生の入門期における外国語活動との関わりを持った活動例を提示する。

(2) 研究の経緯

川越市では、平成21年度の移行期から、第5・6学年で週1時間英語活動を実施してきた。平成20年度には本委員会を立ち上げ、「英語ノート（試作版）」に準拠した年間指導計画と1単位時間の指導案を作成し、当初の英語活動の円滑な導入を図った。

平成21年度は、試作版の検討を重ね、「『英語ノート』を活用した外国語（英語）活動年間指導計画及び1単位時間の指導案綴り1・2」を作成し、各小・中学校に配布し、授業に活用できるようにした。

平成22年度は、次年度から全面実施となる外国語（英語）活動を踏まえ、その評価について検討し、評価の観点と評価規準を作成した。各小学校に配布し、活用を図った。また、平成23年度に過去2年間の移行期間に外国語（英語）活動に取り組んだ児童・生徒を対象とした意識調査を実施するために、調査内容を検討し予備調査を行った。予備調査では調査対象となった母集団が小さかったが、外国語（英語）活動や英語科授業に対する児童・生徒の大まかな特徴を捉えることができた。

平成23年度は調査対象を拡大し、結果を細かく分析し、外国語（英語）活動の成果と課題や中学校英語科授業との連携について研究を行った。

2 研究の取組

(1) 本年度の研究内容

平成24年度は今年度から外国語活動の教材が「英語ノート」から「Hi, friends!」に変わったことを受け、指導案の作成や小中連携した英語教育を充実させるための出前授業等の活用事例、中学校1年生の入門期における外国語活動との関わりを持った活動例を作成し、授業で活用できるよう研究を行った。（詳細は「小学校外国語活動研究委員会研究冊子」に掲載）

(2) 研究実績

期 日	場 所	主 な 内 容
平成24年8月30日（木）	川越市立教育センター	○委嘱書交付 ○趣旨説明 ○研究の方向性の決定
10月16日（火）	川越市立教育センター	○研究部の決定 ○部会ごとの協議
11月13日（火）	川越市立教育センター	○部会ごとの協議
平成25年1月22日（火）	川越市立教育センター	○部会ごとの協議
2月 1日（金）	川越市立教育センター	○原稿の最終確認

第5学年外国語活動指導案

＜45分＞

- 1 教材名 Lesson 4 I like apples.①
- 2 目標 日本語と英語の音の違いに気付き、好きなものや嫌いなものを表す表現を知る。
- 3 評価 身の回りにおける英語と日本語の発音の違いに気づいている。【言語や文化への気づき】
- 4 準備 教師用絵カード(よく耳にする外来語)、英語の歌CD、Hi, friends! CDまたはデジタル教材
- 5 展開 (※使用表現: I like ~. / I don't like ~.)

時間	活動内容	担任 (HRT)	AET	教材教具
3分	1 英語で挨拶をしよう	<ul style="list-style-type: none"> 自分の体調に合わせた答えができるようにさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体及び個別に挨拶する。 	
		A: Hello, how are you? S: I'm fine / happy / hungry / sleepy .		
3分	2 英語の歌を歌おう ♪ Sleeping John ♪ など	<ul style="list-style-type: none"> 楽しく歌えるよう、手拍子などを入れながら歌うよう促す。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童とともに楽しく歌う。 	英語の歌CD
5分	3 先生の好きなもの嫌いなものを知ろう	<ul style="list-style-type: none"> 黒板を二つに分け、○と×など、今日学ぶ表現が好きと嫌いを表していることを児童が自然と理解できるような表示をする。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵カードを出し、I like dogs. と言いながら、犬の絵カードを○の場所にはる。同様に、I don't like chocolate. と言ったら、×の場所にはる。 	教師用絵カード
7分	4 身の回りのものの言い方を練習しよう ・絵カードの単語の練習をする。	<ul style="list-style-type: none"> 日本語での言い方と英語での言い方の違いに気をつけて聞くように促しながら、絵カードを提示する。 	<ul style="list-style-type: none"> 絵カードの単語を発音し、児童にくり返させる。 「バナナ (カタカナ読み)」と「バナ〜ナ (英語の音)」を行うことで、日本語と英語の音の違いを意識させる。 	教師用絵カード Hi, friends! p.14~15 デジタル教材
		cherries, apples, strawberries, lemons, bananas, pineapples, peaches, grapes, oranges, melons, kiwi fruits, ice cream, milk, juice, baseball, soccer, swimming, basketball, birds, rabbits, dogs, cats, spiders, など		
8分	5 ミッシングゲームをしよう	<ul style="list-style-type: none"> 児童に目を閉じさせ、その間に黒板に貼ってある教師用絵カードから1枚ぬく。 	<ul style="list-style-type: none"> 目を開けさせ、What's missing?と尋ねる。 	教師用絵カード
10分	6 キーワードゲームをしよう	<ul style="list-style-type: none"> やり方をデモンストレーションで示す。 		教師用絵カード
		<p>①児童はペアになって犬役とハンバーガー役に分かれ、それぞれ片手を前に出す。</p> <p>② HRT は、黒板に貼ってある教師用絵カードの中から、キーワードを決め、児童に知らせる。</p> <p>③ AET は、I like ~.の表現を言い、児童は、AET の後について表現を繰り返す。キーワードを AET が言ったら、犬役の子は、ハンバーガー役の子の手を押さえに行く。ハンバーガー役の子は、食べられないように逃げる。</p> <p>④キーワード、犬役とハンバーガー役を替えて行う。 ※消しゴムや帽子を取り合ってもよい。</p>		
5分	7 チャントをしよう 【Let's Chant ①】 ♪ I like apples. ♪	<ul style="list-style-type: none"> 始めに、どんな単語が出てくるかと投げかけ、CDを聞かせる。 	<ul style="list-style-type: none"> 出てきた単語を確認しながら、一緒に言う。 	CDまたはデジタル教材
4分	8 振り返りと挨拶をしよう Thank you very much, ~sensei. See you.	<ul style="list-style-type: none"> 本時の学習の感想を書く時間を確保し、指名して聞く。 大きな声で挨拶ができるように支援する。 	<ul style="list-style-type: none"> 全体に挨拶をする。 	振り返りカード

第6学年外国語活動指導案

- 1 教材名 Lesson 4 Turn right.① <45分>
 2 目標 英語と日本語では、建物の表し方が違うことに気づく。
 3 評価 身の周りにおける外来語における英語と日本語の発音の違いに気づいている。【言語や文化への気づき】
 4 準備 教師用絵カード(建物・動作)、英語の歌CD、Hi, friends!CDまたはデジタル教材、おはじき(5個×児童数)
 5 展開 (※使用表現: Go straight/Turn right/ Turn left/ stop.)

時間	活動内容	担任 (HRT)	AET	教材教具
3分	1 英語で挨拶をしよう	・自分の体調に合わせた表現ができるようにさせる。	・全体に挨拶した後、数名の児童と挨拶する。	挨拶カード
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> A: Hello! How are you? S: I'm fine/ hungry/ sleepy. </div>				
3分	2 英語の歌を歌おう 【Let's Sing】 ♪Bingo♪	・楽しく歌えるように手拍子などを入れながら歌うよう促す。	・児童とともに楽しんで歌う。	英語の歌CD
12分	3 建物の言い方を練習しよう ・What's this?クイズをしながら、建物の言い方を練習する。	・建物絵カードの一部を見せて何かを推測させ、児童に興味を持たせる。	・建物当てクイズのヒントを出す。	教師用絵カード(建物) Hi, friends! p.14~15
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> Q: What's this ? H1: You look this circle. H2: Many colors. </div>				
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> park, school, flower shop, hospital, bookstore, restaurant, supermarket, fire station, police station, convenience store, ... </div>				
8分	4 おはじきゲームをしよう 【Let's Play】	・児童一人ずつにおはじきを5個配る。 ・ゲームのやり方を説明する。		おはじき 教師用絵カード(建物) Hi, friends! p.14~15 CD またはデジタル教材
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ①建物の中から5つ選んでおはじきを置かせる。 ②AETの発音を聞き、児童は聞こえた建物などの上にあるおはじきを発音してからとる。 ③全てとることができたら finishedと言わせる。 </div>				
10分	5 ミッシングゲームをしよう			教師用絵カード(建物)
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> ①建物絵カードを黒板に貼る。 ②1枚の絵を隠し、どの絵がなくなったのか発表させる。 ③1度に隠すカードを2枚、3枚とふやしていく。 </div>				
5分	6 道案内の言い方を知ろう	・AETの発音を聞かせ、それと同じ動作をさせる。	・やり方をデモンストレーションで示す。	教師用絵カード(動作)
4分	7 振り返りと挨拶をしよう	・本時の学習の感想を書く時間を確保し、指名して聞く。 ・大きな声で挨拶ができるように支援する。	・全体に挨拶をする。	振り返りカード
<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> Thank you very much, ～sensei. See you. </div>				

出前授業外国語活動指導案(1)

- 1 教材名 フォニックスの基礎と Do you have ~? Yes, I do. No, I don't. I don't have a ~. (45分)
- 2 目標 アルファベットの持つ音を学び、音読みを意識しながら簡単な単語を絵と文字を見て発音する。
持っている物(飼っているもの)について、尋ねたり答えたりする表現に慣れ親しむ。
- 3 評価 アルファベットの持つ音を学び、簡単な単語を絵と文字を結びつけて発音している。
【言語や文化への気づき】
持っている物(飼っているもの)について、尋ねたり答えたり、積極的にコミュニケーション活動をしている。
【コミュニケーションへの関心・意欲・態度】
- 4 準備 絵カード、フォニックス教材及びCD Sunshine CD 中学生使用のノート(見本として活用)
- 5 展開 (※使用表現: Do you have a ~? / Yes, I do. No, I don't.)

時間	活動内容	中学校教師(E)	担任(HRT)	教材教具		
3分	1 英語で挨拶をしよう デイリークwestionに答えよう	・自分の体調に合わせた答えができるようにさせる。	・全体及び個別に挨拶する。			
<table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width:50%; padding: 5px;"> E: Hello, how are you? E: How is the weather today? E: What day is it today? E: What's the date today? その他、前時の復習を兼ねた質問等 </td> <td style="width:50%; padding: 5px;"> S: I'm fine/ happy/ hungry/ sleepy. S: It's sunny/ cloudy/ rainy. S: It's Monday. S: It's January tenth. </td> </tr> </table>					E: Hello, how are you? E: How is the weather today? E: What day is it today? E: What's the date today? その他、前時の復習を兼ねた質問等	S: I'm fine/ happy/ hungry/ sleepy. S: It's sunny/ cloudy/ rainy. S: It's Monday. S: It's January tenth.
E: Hello, how are you? E: How is the weather today? E: What day is it today? E: What's the date today? その他、前時の復習を兼ねた質問等	S: I'm fine/ happy/ hungry/ sleepy. S: It's sunny/ cloudy/ rainy. S: It's Monday. S: It's January tenth.					
3分	2 英語の歌を聴こう ♪ I Just Called to Say I Love you ♪	・中学校の授業で紹介している曲を紹介する。	・児童とともに楽しく聴く(歌う)。	Sunshine CD		
15分	3 音読みの練習をしよう 絵カードの文字の練習をする。	・アルファベットの持つ音に注目させながら、音と単語を発音する。→数枚のカードで慣れさせた後、CDを使って練習する。	・アルファベットの持つ音(音読み)に気をつけて聞くように促しながら、絵カードを提示する。	絵カード		
ant, bag, cup, dog, egg, fish, gift, hat, ink, jet, king, lemon, milk, net, octopus, pen, queen, rabbit, sun, tree, umbrella, violin, witch, box, yard, zebra など						
5分	4 飼っている動物を尋ねよう	・デモンストレーションを行い、尋ね方を理解させる。 E: Excuse me. Do you have a dog? H: No, I don't. Do you have a rabbit? E: Yes, I do. Here you are. (ウサギの絵カードを差し出す。) H: Thank you. E: You're welcome. Good-bye.		絵カード		
・Do you have a ~? / Yes, I do. / No, I don't. の言い方を練習させる。						
10分	5 カード集めゲームをしよう	①HRTは、フォニックスに出てきた単語の絵カード(同じ絵10枚、6種類で30人分)を1人2枚ずつ配布する。配布された動物が、自分が飼っている動物である。 ②児童は、友達に自分のカードを見せてはいけない。 ③児童は、自分が飼っている動物を相手に Do you have a ~?で尋ねる。 ④尋ねられた児童は、自分がその動物を飼っていたら Yes, I do. で答え、カードを相手に渡さなくてはならない。飼っていなければ No, I don't. で答え、カードの移動はない。 ーお互いに尋ね合う。ー ⑤集めたカードの枚数で競う。		絵カード		
8分	6 中学校の英語学習についての話を聞こう	・予習、復習等の事や文字が入ること等を紹介する。	・中学校生徒の使用している学習ノートを例として見せる。	中学校生徒の使用しているノート		
1分	7 挨拶をしよう	・大きな声で挨拶ができるように支援する。	・全体に挨拶をする。			
Thank you very much, ~sensei. See you.						

＜中学校の外国語学習で活用できる活動例＞

中1：アルファベット

「Hi, friends! 1・Lesson 6 アルファベットをさがそう/What do you want?」

「Hi, friends! 2・Lesson 1 アルファベットクイズを作ろう/Do you have “a”?」

【活動例 1】アルファベット探し

＜約10分＞

- ①教科書「Sunshine 1」p.16,17の絵カードを見ながら、アルファベット探しをする。
Where is “p”? It's here. / What is this? It's a pencil.などのやり取りからアルファベットとその文字がもつ音との関係に気付かせる。
- ②身の回りにあるアルファベットを探す。(CD, DVD, TV, PTA, PCなど)

【活動例 2】ゴー フィッシュゲーム

＜約20分＞

- ①各グループにアルファベットの大文字と小文字のカードを1組(52枚)ずつ用意する。
- ②机を囲むように座り、1人5枚ずつ配り、残りのカードは中央に裏返して積む。
- ③手持ちのカードで同じアルファベットのペア(大文字と小文字)があれば、机の中央へ出す。
- ④順番を決め、1番の人が他の人のうち1人を指名して、自分の欲しいアルファベットを例えば Do you have “a”?と言うように尋ねる。
- ⑤尋ねられた生徒は、そのカードを持っていたら、Yes, I do. Here you are.と言って、尋ねた生徒に渡す。尋ねた生徒は、同じアルファベットのペアを机の中央に出す。
- ⑥尋ねられた生徒がもっていなかったら、No, Go Fish!と答える。この時、尋ねた生徒は、中央の積まれたカードから、1枚取らなければならない。
- ⑦これを繰り返し、手持ちのカードが早くなくなった人の勝ちとなる。

【活動例 3】アルファベット4目並べゲーム (Tick-Tack-Toe)

＜約10分＞

- ①文字シート1枚と2色のチップ各13枚を各ペア(グループ)に配る。
- ②各ペアは並んで座り、文字シートを机の上に置き、チップの色を決めて13枚ずつ持つ。
- ③各ペアは、じゃんけんなどで先攻・後攻を決める。
- ④先攻の生徒は、文字シートのアルファベット26文字の中から自分が言える文字を1つ選んで発音する。正しく発音できれば、その文字の上にチップを置くことができる。
- ⑤後攻の生徒も同様に行う。
- ⑥縦・横・斜めのいずれかに、先にチップが4つ並んだ方が勝ち。相手のチップを4つ並べさせないように阻止しながら進める。
- ☆ゲーム開始前に、アルファベット26文字の中から1枚ラッキーカードを選んでおいて、裏向きに黒板に貼っておく。勝負のつかないペアは、ラッキーカードにチップを置いていた方を勝ちとする。
- ☆チップが用意できない時は、色の違う鉛筆で文字を○で囲んでいく方法でもできる。

アルファベット文字シート (下記のシートを拡大コピーして、活用してください。)

A	B	C	D	E	F
G	H	I	J	K	L
M	N	O	P	Q	R
S	T	U	V	W	X
Y	Z				

				a	b
c	d	e	f	g	h
i	j	k	l	m	n
o	p	q	r	s	t
u	v	w	x	y	z

【活動例 1】ダイナマイト ナンバーゲーム (Clapping Game) <約 15分>

- ①0~9のうちから数字を2つ選ぶ。選んだ数字が一の位にくる数字は全てダイナマイトナンバーになる。(例) 3と5を選んだら、3, 5, 13, 15, 23, 25・・・がダイナマイトナンバー
- ②全員が輪になり、膝をたたいてリズムをとりながら、1人ずつスタートナンバーから順に数を数えていく。何かの物の数を数えるようにする。(輪になるスペースがない時は、座席順)
- ③自分の番がダイナマイトナンバーになる場合は、その数字を言わないで2回手をたたく。
- ④間違えた生徒は、輪の中心に座り、次に間違える生徒が出るまでお休み。
- ⑤生徒の実態や時間により、スタートナンバーとゴールナンバーを変えて行う。

(例) 21~50のクッキーを数える場合

先生・生徒全員：How many cookies? × × Let's count up. × ×

生徒A：twenty-one cookies

生徒B：twenty-two cookies

生徒C：× ×

生徒D：twenty-four cookies

生徒E：× ×

生徒F：twenty-six cookies

⋮

⋮

⋮

生徒O：fifty cookies!

【活動例 2】キーナンバーゲーム <約 10分>

- ①生徒はペアで向かい合って座り、間に消しゴムを置いておく。
- ②代表生徒に What number do you like? と質問し、キーナンバーを決める。
- ③キーナンバーが「12」の場合、
先生：Eleven.
生徒：Eleven. (生徒全員で繰り返す。)
先生：Five.
生徒：Five. (生徒全員で繰り返す。)
先生：Twelve.
生徒：繰り返さずにすばやく消しゴムを取る。
☆消しゴムを取った回数がたくさんの方が勝ち。
☆消しゴムを使わなくても、指をつかむ動作やパー (モンスター) でグー (ハンバーグ) を捕まえる動作でも行うことができる。
☆膝をたたきながら、リズムよく進めるとよい。

【活動例 3】How many ~? クイズ <約 10分>

<ペットボトルキャップの数>

- ①教科書「Sunshine 1」p.43のイラストのように、袋に入れた多数のペットボトルキャップを用意して、How many bottle caps? と質問し、生徒に予想させる。
- ②実際に全員で数えていく。

<漢字の画数>

- ①生徒の好きな漢字とその画数を書かせる。
- ②教室内を歩いて回り、互いに How many strokes does this kanji have? と尋ね、同じ画数の相手を見つけさせる。

☆数が明らかな絵カードを持って、How many ~? と尋ねるようなことは避け、「いくつあるだろう?」と生徒が興味を持って活動に取り組めるような工夫をする。